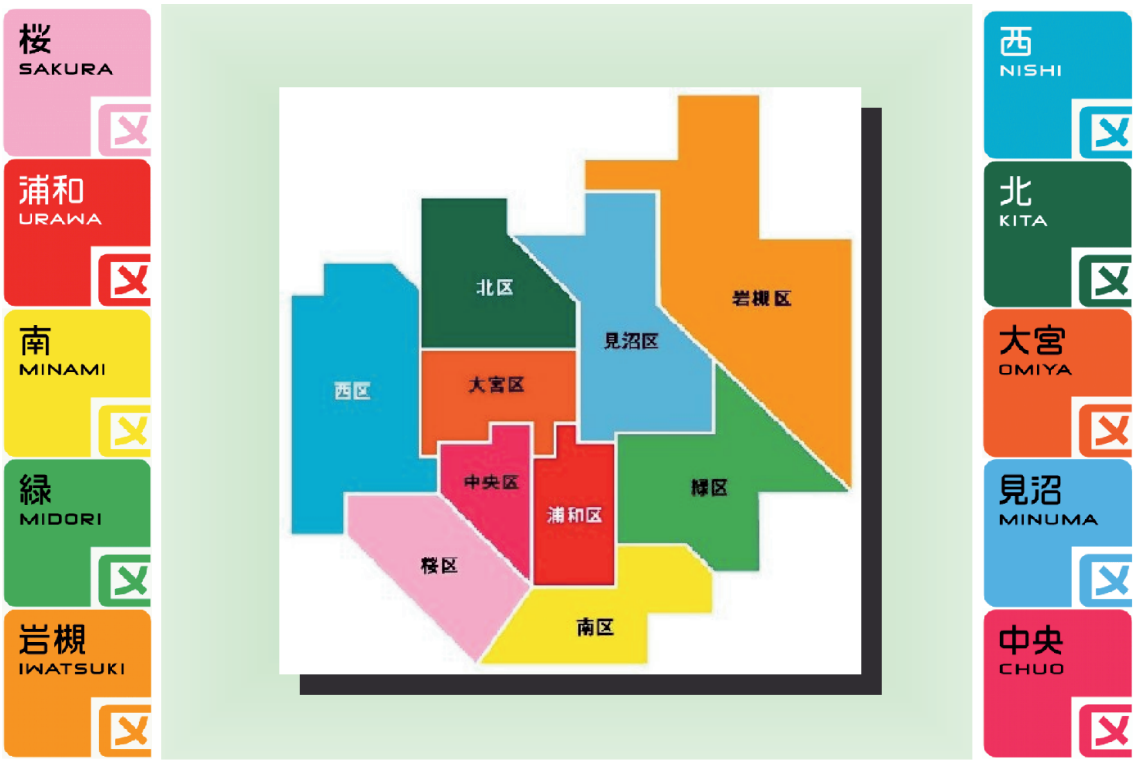
さいたま市ＰＴＡ協議会
設立十周年記念誌

PTA
saitama.city

10th Anniversary 2001-2010

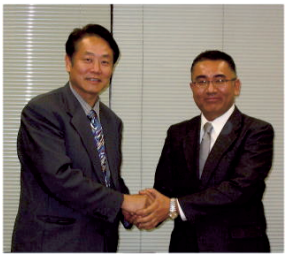














さいたま市PTA協議会















PTA
saitama.city
















役員セミナー
役員研修会







少年自然の家 視察研修























広報紙づくり講習会
広報紙コンクール












市P協
さいたま

教育委員会懇話会

研究大会







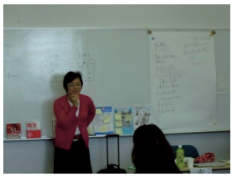































サークル活動 後援










日P 関ブロ 指定都市






目次

あいさつ……2
祝辞……4
10年間のトピックス……10
市P協の誕生……14
10年間のあゆみ……16
各区連合会紹介……26
10周年記念座談会……36
事務局だより……39
組織図……40

祝

設立１０周年を迎えて

さいたま市ＰＴＡ協議会会長
設立10周年記念事業実行委員会会長
磯田　和男



十年前、浦和・大宮・与野三市が合併し、百万都市「さいたま市」が誕生しました。それに伴い、三市のＰＴＡ連合会が他の諸団体に先駆けて一つになり、平成十三年五月一日に「さいたま市ＰＴＡ協議会」が誕生しました。平成十七年には、岩槻市が合併し、現在一六四校、九万人の会員を擁する組織となりました。

設立十周年を迎えるにあたり、これまでさいたま市ＰＴＡ協議会の発展にご貢献されました各校ＰＴＡ並びに各区連合会の諸先輩方の多大なるご尽力とご功績に心より敬意と感謝を申し上げます。また、この間、ご支援、ご指導をいただきましたさいたま市、さいたま市教育委員会、関係各位に深く御礼申し上げます。

現在私たちは、先輩方の培ってきた「子どもたちの笑顔溢れる環境づくり・地域づくり・未来づくり」「二十一世紀を担う子どもたちの生きる力の育み」という基本方針・活動目標を継承しながら、何ができるか、何をしなければならないかをしっかりと見極めて活動し、五年、十年後に繋げていかなくてはならないと考えています。

今、子どもたちを取り巻く社会環境は大きく変化し続けています。携帯電話、インターネットの普及に伴い、それを悪用してのいじめ、子どもたちを狙うさまざまな犯罪、または、不登校の増加などが大きな問題となっています。このような問題を解決し、子どもたちを守っていくために、学校、家庭、地域、行政との連携役としてＰＴＡ協議会が大きな役割を担っています。活動の在り方を考えるとともに、その活性化を図りながら、子どもたちを見守っていかなければなりません。

さいたま市ＰＴＡ協議会は、会員の皆様のご協力と関係各位のご指導をいただきながら努力をしていきたいと考えています。

本会の更なる発展のため、ひいてはさいたま市の子どもたちの健やかな成長のため、今後ともご支援、ご鞭撻を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。

祝

設立１０周年を迎えて



設立 10 周年記念事業実行委員長

渡辺 紀子

あいさつ

さいたま市ＰＴＡ協議会が十周年を迎え、皆様と共に祝うことができますことに感謝申し上げます。

設立から今日まで、さいたま市ＰＴＡ協議会の活動にご理解、ご支援いただきました市・教育委員会、小学校長会、中学校長会をはじめとした学校関係者の皆様、各校ＰＴＡ会長をはじめとした会員の皆様、その他多くの関係団体の皆様に敬意を表すと共に心から感謝申し上げます。

また、さいたま市ＰＴＡ協議会設立にご尽力いただきました多くの諸先輩の皆様、そして今日のさいたま市ＰＴＡ協議会を築きあげてこられた歴代の理事の皆様のご努力に深く感謝を致したいと思います。

平成十三年のさいたま市誕生を前にした、平成十二年五月より、浦和・大宮・与野各市ＰＴＡ連合会は情報交換会を重ね、三市Ｐ連合会合併協議会を発足させ、平成十三年五月一日さいたま市ＰＴＡ協議会が設立されました。その後平成十五年政令指定都市移行に伴い九つの区連合会が立ちあがり、各区三名の理事からなる理事会が組織され、埼玉県ＰＴＡ連合会から独立し、日本ＰＴＡ全国協議会の会員となり、政令指定都市のＰＴＡ協議会としての活動を始めました。平成十七年には岩槻区が加わり、その後事業の更なる充実に向けて活動の幅を広げてきました。この間、市・教育委員会と意見交換や要望をあげ、さいたま市立となった小中学校の教育環境充実のために大きく貢献してきました。

こうして振り返るとこの十年間は、さいたま市ＰＴＡ協議会としての組織運営の確立と教育行政との協力関係作り、各区連合会の活動を確立させる期間であったように思います。十周年を機に、これまで作り上げてきた実績を引き継ぎ、設立当初を振り返り、事業の目的や意義を再確認した上で、事業内容を見直し、その充実を図りながら、人に例えれば成人となる二十周年に向けて、市Ｐ協として子どもたちが安心して楽しく学べる環境作りのために新たな活動への出発点として欲しいと思います。

結びに、設立十周年実行委員会の皆様をはじめ、関係各位の皆様のご尽力、ご支援に深く感謝とお礼を申し上げます。

設立１０周年を祝して



さいたま市長

清水 勇人

このたび、さいたま市ＰＴＡ協議会が発足十周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

また、会員の皆様方におかれましては、日頃より各家庭、学校、地域において、子どもたちの教育環境充実のために、熱心に活動をされていることに対しまして、敬意を表しますとともに、厚くお礼申し上げます。

さて、さいたま市は平成十三年の誕生以来、平成十五年の政令指定都市への移行、さらには平成十七年の岩槻市合併を経て、現在は人口百二十二万人を要する大都市へと飛躍を遂げてまいりました。

大都市としての様々なまちづくりの施策に取り組む中で、本市は、「子どもが輝く〝絆〟で結ばれたまち」を目指し、社会の未来を託す子どもたちの教育については特に力を入れてまいりました。

さいたま市ＰＴＡ協議会の皆様におかれましても、市の合併などでは様々なご苦労もあったかと存じますが、さいたま市発足とともに十年間の充実した活動を積み重ねてこられ、本市の教育の進展に多大なご貢献をいただいておりますことに対し、改めて深く感謝申し上げます。

近年は、都市化や核家族化の進展に伴い、地域のネットワークや、人と人とのコミュニケーションが希薄になったとも言われております。次の世代を担う子どもたちの健全育成のためには、人と人との絆を取り戻し、家庭、学校、地域が協働して、社会全体で子どもたちを育んでいくことが大切です。

家庭、学校、地域をつなぐＰＴＡの果たす役割がますます重要性を増していく中、さいたま市ＰＴＡ協議会におかれましては、本市の教育行政に対しまして、今後とも変わることのないご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、さいたま市ＰＴＡ協議会の十年に及ぶ功績に敬意を表するとともに、貴会のますますのご発展と会員の皆様方のご健勝を祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

設立１０周年を祝して



さいたま市議会議長

真取　正典

このたび、さいたま市ＰＴＡ協議会が設立十周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

さいたま市ＰＴＡ協議会におかれましては、三市の合併によりさいたま市が誕生いたしました平成十三年の設立以来、今日まで家庭、学校、地域における最善の教育を目指し、ＰＴＡ活動の発展と児童・生徒の福祉の増進を目的に、研究会や講習会など様々な事業を行ってこられました。

また、さいたま市の教育の振興にも多大なるご理解とご協力を賜り、敬意を表するとともに心から感謝を申し上げます。

本市は、指定都市として魅力あふれる都市づくりを推進すべく、様々な施策を展開しております。

教育に関する分野におきましては、総合振興計画の中で「一人ひとりが生き生きと輝く個性を育む」を施策展開の基本に据え、家庭、学校と地域社会が連携を深めながら、開かれた学校づくりを進め、一人ひとりの個性の尊重を基本として、豊かな人間性と健全な社会性を身につけた、次世代を担う子どもの育成を目指しております。

これらの施策を実現していくためには、申し上げるまでもなくＰＴＡ協議会での熱心な活動によせる期待は大きなものがあります。

市議会といたしましても、さいたま市の将来を担う子どもたちが明るく、たくましく、思いやりのある心豊かな人間に成長できますように、市民の皆様方との連携を密にし、教育環境の整備・充実に向けて、より一層の努力を傾注してまいる所存でございますので、今後とも皆様方のご支援と、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、さいたま市ＰＴＡ協議会のますますのご発展と、会員の皆様方のご健勝をお祈り申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

設立１０周年を迎えて

さいたま市教育委員会教育長

桐淵　博



さいたま市ＰＴＡ協議会が発足十周年の記念すべき年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

会員の皆様方におかれましては、日ごろから家庭、学校、地域を結ぶ重要な役割を担っていただくとともに、子どもたちの健全育成のため様々な活動に取り組まれていることに対し、厚くお礼申し上げます。

また、さいたま市誕生とともに発足し、現在では会員数約九万人に上る貴会が、この十年間にわたり、多くの会員の皆様の努力による多大な功績を積み上げてこられましたことに敬意を表するものであります。

さて、今日、都市化や少子化、情報化などの進展により、子どもたちを取り巻く環境は、急速且つ大きく変化しており、そのような中、教育現場においても様々な今日的課題への対応が求められているところでございます。

教育とは、豊かな人間性と創造性を備えた、社会の発展に寄与する人間を育成するという使命を担うものであり、このことは、どのような時代においても変わることがない普遍的なものであると考えておりますが、同時に、この変化の早い時代に対応し、未来を切り拓いていくことのできる子どもたちを育成していかなければなりません。

さいたま市におきましては、「知」「徳」「体」「コミュニケーション」のバランスのとれた子どもを育むことを基本理念として、様々な施策や事業に取り組んでおりますが、次代を担う子どもたちの健全育成のためには、家庭・学校・地域の連携が必要であり、ＰＴＡにはその要としての役割が期待されております。

本市といたしましても、地域全体で健全な子どもたちが育つ環境づくりを、ＰＴＡの皆様と一緒に進めていきたいと考えておりますので、今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、さいたま市ＰＴＡ協議会の一層のご発展と会員の皆様方のご健勝を祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

設立10周年に寄せて



元さいたま市教育委員会教育長
臼杵 信裕

さいたま市ＰＴＡ協議会発足十周年、心からお祝い申し上げます。平成十三年五月一日にさいたま市が誕生してから四年間、市教育委員会にお世話になりました私といたしましても、感慨ひとしおのものがあります。

さて、さいたま市ＰＴＡ協議会の設立は、平成十三年五月一日と事務局から伺いました。さいたま市中学校長会の設立が同年七月十七日、小学校長会が十一月二十日ですから、この市Ｐ協の設立は驚く程の早さです。このことからも、旧三市のＰＴＡ関係者の新市の教育にかける熱い期待がうかがわれるような気がして、頭の下がる思いです。

ところで、原点に還る意味で、平成十四年六月さいたま市議会定例会での、「ＰＴＡの役割」と「教育委員会との関係」についての答弁要旨がありますので、載せてみます。

「ＰＴＡは、児童・生徒の健全な成長を図ることを目的に、親と教師が協力して、学校及び家庭における教育について理解を深め、その振興に努め、さらに、児童・生徒の教育環境の改善充実を図るための社会教育法に定められた社会教育関係団体であり、公の支配に属さない団体ですので、教育委員会といたしましては、ＰＴＡとのパートナーシップを強め、協働により、学校・家庭・地域の教育力の向上に努めてまいります。」

今、教育には学力や規範意識の低下など課題がありますが、この十周年を機に更なる活動の充実を祈念し、お祝いの言葉といたします。

祝辞 ― 学校を支える力・市Ｐ協十周年



前さいたま市教育委員会教育長
藤間 文隆

市Ｐ協十周年、おめでとうございます。瞬く間の十年、そして、さいたま市教育の礎を共に築いた価値ある十年でした。

わたしが教育長としてお世話になったのは平成十七年七月からの四年間でした。就任当初の役員研修会で、子ども達の基礎学力や人間関係を築く力等の向上をお約束しました。学力アップについては各校の先生方に頑張ってもらいました。どの学校も研究発表ができる様になり、結果は全国学力テストに現れました。もっとも、テスト結果が出るまでは、通信簿をもらう前の子どもの心境でしたが。

人間関係プログラムについては、教育特区を取得しての展開でした。市Ｐ協も親向けプログラムに取り組んでくださいました。現在のＰＴＡの第一の役割は成人教育機能だと思いますが、その力を大いに発揮していただきました。

教育環境整備もＰＴＡの大きな役割ですが、「ノーテレビ・ノーゲーム・デー」ではご協力いただきました。当時の向江会長さんにもご出席いただいた八都県市首脳会議に提案、採択された運動でした。元々はメディアの有害情報規制を目論んだのですが、これは叶いませんでした。今となっては懐かしい思い出です。

産みの苦しみの十年は、今後の市Ｐ協の歴史に特筆される充実した歳月でした。皆々様に感謝し、今後の一層の発展を祈念致します。

理念の共有あればこそ



さいたま市ＰＴＡ協議会初代会長
橋本　正晴

さいたま市ＰＴＡ協議会が、設立十周年を迎えましたこと心からお祝い申し上げますとともに、今日まで協議会の発展にご尽力いただきました役員・事務局の皆様、そして会員ならびに関係各位のご理解ご協力に感謝を申し上げます。

さて平成十三年五月一日のさいたま市誕生に合わせ、三市ＰＴＡも合併しようという申し合わせのもと、前年の九月から連絡協議会を開始し、合わせて合併協議会による討議を重ねました。それぞれ歴史ある三市の団体でありましたが、協議会の規約に定めた、「家庭、学校及び地域における最善の教育をめざし、ＰＴＡ活動の発展と児童、生徒の福祉を増進することを目的とする」との共有できる理念があったればこそ、他の社会教育団体や、各種団体などに先駆けて合併が実現できたと考えています。

しかしながらその後二年間は、旧三市のＰＴＡ連合会をブロック会とし、県ＰＴＡ連合会の下部組織として、大宮Ｂ会は北足立北部地区に、浦和・与野Ｂ会は南部地区に所属し活動しました。平成十五年四月の政令指定都市移行により、県Ｐ連より独立し日本ＰＴＡの直属団体となったのです。内に於いては、旧三市のブロック会を廃し、各区の連合会に改組いたしました。この時点で本当の合併が完了できたのではないかと思っています。

私にとって大宮市ＰＴＡ連合会会長を受けてからの激動の四年間は、生涯忘れることのできない年月となっています。今後も協議会の健全なる発展をお祈り申し上げます。

苗木から大樹へ



さいたま市ＰＴＡ協議会第２代会長
向江　正晃

さいたま市ＰＴＡ協議会が十周年を迎えるにあたり、心よりお喜び申し上げますとともに、日ごろから子どもたちの健全育成に多大なご尽力をいただき、心より敬意を表する次第であります。

私は、橋本会長から志を引き継ぎ会長となりましたが、例えるならば丹精こめて育てた「さいたま市ＰＴＡ協議会」という大事な苗木を引き継いだように思います。当初は、試行錯誤の連続でしたが、会員の皆様、教職員の皆様、地域の皆様のご協力をいただき、いつしか苗木から十枚の若葉が成長していました。十区連合会の目覚しい活躍です。各区は、特色を生かした積極的な活動を推進し、素晴らしい成果を収めるとともに、時には区という垣根を越え「さいたま市ＰＴＡ協議会」として一致団結し様々な問題を乗り越えてまいりました。その後も、ますます充実した活動を推進され、苗木は十年目という節目を迎え、大きな樹へと成長をとげられたと確信しております。子どもたちを取り巻く環境は目まぐるしく変化していますが、家庭・学校・地域を結ぶ要として「さいたま市ＰＴＡ協議会」が、樹のごとく地域に根をはり大きく葉を広げ、未来を担う子どもたちが健やかに成長できる環境づくりに一層ご尽力いただけるものとご期待申し上げます。

最後になりましたが、さいたま市ＰＴＡ協議会のご発展と、皆様方のご健康ご多幸を心からお祈り申し上げましてお祝いのことばといたします。

十年を振り返って



さいたま市ＰＴＡ協議会第３代会長
天野　雅裕

さいたま市ＰＴＡ協議会が設立十周年を迎えますこと、心よりお慶び申し上げます。

振り返りますと初めて大砂土中学校でＰＴＡ会長を拝命した年に三市が合併し、その年に北与野駅前のアルーサ清水園で行われた設立総会に出席した時のことが思い出されます。その後さいたま市が政令指定都市になり行政区が分けられると、それに併せてＰＴＡ協議会も区連合会が設立され、市教育委員会と対になる市ＰＴＡ協議会と各区のＰＴＡをまとめる区連合会と役割分担がなされ現在の形になりました。その変化する中でＰＴＡ活動を行い見沼区連合会の役員に、その翌年から市Ｐ協の理事となり、またその翌年は見沼区連合会の会長として市Ｐ協と関わりました。理事三年目を迎える年に推薦委員会からまさかの市Ｐ協会長に推薦され大変に悩みましたが、それまで多くの方々と出会い助けて頂いた経験から少しでも市Ｐ協や各区連や各校ＰＴＡの役に立てればとの思いで拝命いたしました。平成十九年度は辻南小学校が開校し、第六十三回指定都市ＰＴＡ連絡協議会研究大会さいたま市大会の開催や、保険業法改正のため安全互助会に変わる新たなＰＴＡ活動総合補償制度の立ち上げ準備などがあり、日本ＰＴＡ全国協議会の各種会議への参加も合わせると非常に多忙でしたが、無事やり遂げることが出来たのも多くの方々からのご支援の賜と感謝しております。これからも子どもたちのために活動する各校ＰＴＡや区連合会をサポートするさいたま市ＰＴＡ協議会として、益々発展されますことを祈念しております。

新たな成長へ



さいたま市ＰＴＡ協議会第４代会長
渡辺　紀子

さいたま市ＰＴＡ協議会が設立十周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

私は四代目会長として平成二十、二十一年度の二年間務めさせていただきました。歴代の偉大な会長の後という大きなプレッシャーの中、多くの方々のご協力とご支援をいただき、感謝の気持ちでいっぱいの二年間でした。

十周年を前にしたこの二年間は市Ｐ協が産みの苦しみを経て誕生し、一つ一つ問題を解決しながら組織や事業を確立して成長してきた中で、市Ｐ協の存在意義を改めて考え、新たな成長期へ向けての過渡期にあったように思います。

平成二十一年度に第二回研究大会を開催しましたが、子どもたちが安心して学べる環境作りのために、市Ｐ協として広い視野の中で様々な課題について情報発信・問題提起して共に学び合う場を持つことは必要だと思いました。「不連続の連続」と言われるＰＴＡ活動ですが、市Ｐ協だからこそ単年度で終わる研究討議ではなく、連続性を持たせたものが出来るのではないかと思います。第三回、四回と研究大会が開催されることを期待しています。

結びにあたり、十周年を機に、さいたま市ＰＴＡ協議会の活動が充実し、ますます発展されますことを祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

2001 平成13年

市P協

浦和市PTA連合会
大宮市PTA連合会
与野市PTA連合会
が合併協議書に調印

設立総会開催
初代会長　橋本　正晴

浦和ブロック
大宮ブロック
与野ブロック
で事業

さいたま市

さいたま市誕生

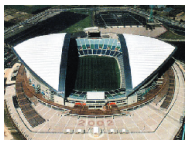
さいたま市長選挙
初代さいたま市長　相川　宗一氏

初代教育長　岩上　進氏

第二代教育長　臼杵　信裕氏

世の中

埼玉スタジアム２００２完成



大阪・附属池田小で児童殺傷事件

「千と千尋の神隠し」が大ヒット

米同時多発テロ

野依良治博士にノーベル化学賞

2002 平成14年

市P協

第五十回日本ＰＴＡ全国研究大会
埼玉大会に協力

市Ｐ協ホームページ立ち上げ

シンボルマーク決定

さいたま市

北浦和ターミナルビル竣工

学校完全週五日制

市の木（ケヤキ）
市の花（サクラソウ）
市の花木（サクラ）
を制定



世の中

住民基本台帳
ネットワークシステムスタート

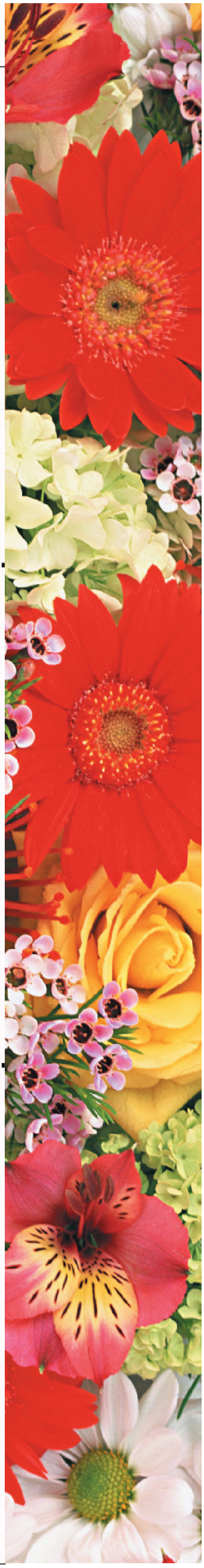
北朝鮮拉致被害者五人
二十四年ぶり帰国

日韓共催ワールドカップ開催
日本ベスト16入り

ソルトレイク冬季五輪開催

小柴昌俊氏にノーベル物理学賞

田中耕一氏にノーベル化学賞



10年間のトピックス

2003 平成15年

九つの区連合会がスタート
優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰
（団体）栄小・大谷場中
（個人）橋本　正晴・望月　三之
日本ＰＴＡ会長表彰
（個人）望月　三之・徳永　茂
小泉　修一・杉浦　小百合

政令指定都市　さいたま市スタート
コミュニティバス運行開始
総合記念体育館
「Ｖアリーナ」落成式



各区で区民会議発足
第一回「さいたま市民まつり」開催

地上デジタル放送開始
新型肺炎ＳＡＲＳを新感染症に指定
六万年ぶりに火星が大接近
スペースシャトル「コロンビア」
大気圏突入の途中で空中分解
アメリカ・イラク戦争
アメリカが攻撃開始
松井秀喜選手がヤンキースへ入団

2004 平成16年

第二代会長　向江　正晃
岩槻市ＰＴＡ連合会と合併
優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰
（団体）大宮小・海老沼小
日本ＰＴＡ会長表彰
（個人）齋藤　博一・金子　文江
興津　武志・篠原　唯史

シーノ大宮センタープラザ
複合公共施設オープン



秋葉の森総合公園オープン

長崎の小学校で
小六女児が同級生を殺害
奈良で小一女児が
下校途中に連れ去られ殺害される
新潟中越地震で震度六強
台風最多上陸　真夏日記録更新
山口で鳥インフルエンザ発生
二十年ぶりに新紙幣発行
アテネ五輪で日本選手活躍

2005 平成17年

岩槻区が加わり　十区連合会となる
優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰
（団体）日進小・下落合小
日本ＰＴＡ会長表彰
（団体）常盤小・辻小
（個人）張　信子・栗原　猛
境野　明美・宇佐美　伸二郎

岩槻市と合併
「プラザウエスト」オープン
さいたま市平和宣言都市を制定
市民投票を経て　区の色を制定





日本人の人口が初めて減少に転じる
尼崎でＪＲ西日本脱線事故
マンションなどの耐震強度偽装事件
郵政民営化法が成立

10年間のトピックス

2006 平成18年

市P協

第一回市P協研究大会開催
優良PTA文部科学大臣表彰
（団体）高砂小・大宮東中
日本PTA会長表彰
（団体）常盤北小・中島小
（個人）新田　敦子・青山　恭之
二重作　和久・葩島　雅勝

さいたま市

第三代教育長　藤間　文隆氏
全市立小学校百校と
養護学校一校に警備員配置
「学びの向上さいたまプラン」策定
「さいたま子育てWEB」開設

世の中

改正教育基本法が成立
北朝鮮が地下核実験　国連が制裁
冥王星を惑星から格下げし
太陽系惑星は八個になる
ドイツワールドカップ開催
トリノ冬季五輪フィギュアスケートで
荒川静香が金メダル



2007 平成19年

市P協

第三代会長　天野　雅裕
日P中日青少年友好学校交流活動に協力
協力校　八王子中・常盤中
指定都市PTA連絡協議会
研究大会開催
優良PTA文部科学大臣表彰
（団体）与野南小・土合中
日本PTA会長表彰
（団体）谷田小・仲町小
（個人）向江　正晃・原口　久美子
菊川　忠裕・茂木　芳英



さいたま市

全市立小・中学校の図書館に
PCを整備し学校図書館司書を配置
辻南小学校の開校
中高一貫教育校開校
青色防犯パトロール開始
「鉄道博物館」開館
浦和駅東口に「コムナーレ」オープン
「さいたま市学校教育ビジョン」策定



世の中

消えた年金問題で社会保険庁へ怒り沸騰
相次ぐ食品偽装事件で
食の安全が問われる
参議院選で自民党が歴史的大敗
ねじれ国会となる
地球温暖化への危機感が高まり
ゴア氏らがノーベル平和賞受賞



10年間のトピックス

2008 平成20年

第四代会長　渡辺　紀子
ＰＴＡ活動総合補償制度始まる
優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰
（団体）北浦和小・与野東中
（個人）泉　昇・玉井　哲夫
日本ＰＴＡ会長表彰
（団体）植竹小・三室中
（個人）天野　雅裕・若谷　充男
田所　龍雄・高瀬　伸江

全市立小中学校・養護学校の
普通教室へのエアコン設置完了
「岩槻の人形」
「大宮の盆栽」
「浦和のうなぎ」
を伝統産業に指定



「プラザノース」オープン
「第二十回国連軍縮会議
ＩＮさいたま」開催

秋葉原で無差別殺人事件
米国発の金融危機が拡大し世界不況に
オバマ氏がアフリカ系として
初めて米大統領に当選
北京五輪開催
日本人が一挙四人ノーベル賞受賞
物理学賞　小林　誠氏
益川　敏英氏
南部　陽一郎氏
化学賞　下村　脩氏



2009 平成21年

第二回市Ｐ協研究大会開催
優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰
（団体）常盤北小・大久保中
日本ＰＴＡ会長表彰
（団体）日進小・仲本小
（個人）神生　ともえ・山田　真治
山﨑　泰生・長久保　学

第二代市長　清水　勇人氏
第四代教育長　桐淵　博氏
つばさ小学校開校
さいたま医療センター開院
「しあわせ倍増プラン２００９」策定
「さいたま市教育総合ビジョン」策定



衆院選で民主党圧勝
政権交代で鳩山政権誕生
裁判員裁判がスタート
新型インフルエンザが大流行
オバマ米大統領が
「核なき世界」でノーベル平和賞

2010 平成22年

第五代会長　磯田　和男
市Ｐ協十周年記念事業



小惑星探査機「はやぶさ」帰還
バンクーバー冬季五輪で
日本選手活躍
サッカーワールドカップ南アフリカ大会
日本惜しくもベスト８ならず

設立までの経緯

平成十二年五月より、浦和・大宮・与野市ＰＴＡ連合会間の情報交換会を開始。各市Ｐ連より代表二名ずつが出席して毎月一～二回会議を行った。同年十一月、三市ＰＴＡ連合会合併協議会が発足。各市Ｐ連より代表七名ずつ、毎月一回会議を行った。会議を通して、三市ＰＴＡ連合会のお互いがそれぞれに培ってきた活動の共通理解を深め、合併する組織の運営方法などを話し合った。

平成十三年一月からは設立総会の準備と広報紙発行について更に協議を重ねた。同年一月二十五日に大宮市ＰＴＡ連合会事務局（当時）において、三市ＰＴＡ連合会会長（浦和市・高橋政雄氏、大宮市・橋本正晴氏、与野市・望月三之氏）が出席し、五月一日付けで合併し、「さいたま市ＰＴＡ協議会」を発足させる事を盛り込んだ合併決議書に調印した。



話し合いの記録

三市ＰＴＡ連合会正副会長会

＊後に「六人会議」とする。

平成十二年

第1回　五月三十日

・合併についての確認（名称、事務所、資金、上部組織との関係など）

第2回　八月七日

・三市共同事業、ビジョン、会則など

第3回　九月二十五日

・事務所位置、安全互助会、
児童生徒ワイド補償制度など

第4回　九月二十九日

・児童生徒ワイド補償制度について

第5回　十月十日

・児童生徒ワイド補償制度、資金、会則、事務所位置、事務員、設立総会など

第6回　十月二十三日

・会則、設立総会、書き損じ葉書回収、
児童生徒ワイド補償制度など

第7回　十月二十五日

・合併決議書、合併協定書、会則、
児童生徒ワイド補償制度など

第8回　十一月十六日

・合併決議書案、合併協定書案、会則案、
児童生徒ワイド補償制度案の決定
設立総会日程案、三市臨時総会など

ここまでの協議案を各市より七名が参加する「浦和・大宮・与野市ＰＴＡ合併協議会」（二十一人会議）を立ち上げ、協議決定を行うこととなった。

浦和市	会　長	高橋 政雄（東浦和中）
	副会長	前田 美恵子（田島中）
〃		萩原 章弘（内谷中）
〃		杉浦 小百合（原山中）
〃		小泉 修一（三室中）
広報委員長		飛田 悦子（沼影小）
保体委員長		玉井 哲夫（上木崎小）
大宮市	会　長	橋本 正晴（連合会専任）
	副会長	古田 富美子（連合会専任）
〃		茂木 芳英（東小）
〃		鵜篭 雅之（三橋中）
〃		見川 和明（馬宮中）
〃		斎藤 千絵（見沼小）
〃		島村 道宏（校長会）

与野市　会　長　望月三之（与野西中）
副会長　徳永茂（与野東中）
〃　金子文江（大戸小）
〃　大竹一十（校長会）
常任理事　赤岩真理子（与野西北小）
〃　芳賀義宣（与野南中）
事務局　新藤和順（社会教育指導員）

平成十二年

第1回　十一月十二日

①開会の後、自己紹介
②各市P連の紹介
　会員数、学校数、組織、事業など
③これまでの経過説明
④「六人会議」の報告と質疑応答
⑤合併協議書、合併協定書案、会則案について説明と意見交換
⑥「二十一人会議」の今後の進め方について協議

＊事務局についての違い

	事務局	事務員
浦和市	生涯学習課内	市職員
大宮市	小学校の一室	パート職員雇用
与野市	生涯学習課内	社会教育指導員

第2回　十二月二十日

・児童生徒ワイド補償制度の説明
　（幹事保険会社）
・合併協議書、合併協定書について

平成十三年

第3回　一月二十日

・委員会の設置及び担当、設立総会、祝賀会について
・三市ＰＴＡ共同事業について
・広報紙「創立記念号」について

第4回　一月三十日

・会則、細則の協議

第5回　二月二十六日

・会則、細則の協議、承認
・広報委員会報告と協議
・総会・祝賀会準備委員会報告と協議
・児童生徒ワイド補償制度の進捗状況について
・組織図案の説明、討議
・三市ＰＴＡ既存事業の説明

第6回　三月二十九日

・各委員会報告を協議
・事務局の設置場所について
・事務局員の雇用について
・会長人事について

第7回　四月十一日

・各委員会報告を協議
・事務局を現大宮区役所内と決定
・会長人事を決定
　（立候補者を確認後選挙にて）

＊この間「六人会議」は第九回から第十七回まで開かれた。

平成十三年

四月三十日　事務局移転
五月一日　さいたま市ＰＴＡ協議会設立
　広報紙「創立記念号」発行
　８５、０００部
五月十二日　第一回理事会
　総会準備
五月三十一日　第二回理事会
六月十三日　第三回理事会
　総会準備
六月二十七日　設立総会


合併決議書

さいたま市ＰＴＡ協議会誕生

一月二十五日
合併決議書に調印
浦和市Ｐ連：高橋政雄会長
大宮市Ｐ連：橋本正晴会長
与野市Ｐ連：望月三之会長

名称　さいたま市ＰＴＡ協議会
設立総会　六月二十七日（水）
組織　当面、浦和ブロック・大宮ブロック・与野ブロックによって組織
役員　会長一名、副会長若干名、理事若干名、会計若干名、監事二名
上部組織との関係　当面はそのまま（政令指定都市移行時再編）
会計　一本化


左から、高橋会長、橋本会長、望月会長

資金　設立当面の運営費は繰越金より支出
ブロック事業　当面それぞれ整理の上、継承
事務局　大宮総合行政センターＢ棟一階に開設

○広報紙創立記念号　発行

設立総会・祝賀会

六月二十七日
アルーサ清水園にて開催される

さいたま市教育委員会教育委員石川正夫氏、埼玉県ＰＴＡ連合会会長新井裕史氏ほか多数のご来賓をお迎えして、設立総会並びに祝賀会が盛大に行われた。

開かれたＰＴＡを目指し設置された傍聴席では、多くの会員が真剣なまなざしで総会の様子を見守った。





祝賀会では市内各校のＰＴＡ会長・校長など三百名を超える出席を得て、終始和やかに催された。中でも旧三市Ｐ連から選出された二十一名の合併協議会委員の方々には参加者から熱い拍手が寄せられた。

浦和・大宮・与野ＰＴＡ連合会合併協議会委員

《浦和市》
高橋政雄（東浦和中Ｐ）　前田三恵子（田島中Ｐ）
萩原章弘（内谷中Ｐ）　杉浦小百合（原山中Ｐ）
小泉修一（三室中Ｐ）　飛田悦子（沼影小Ｐ）
飯塚征武（常盤中Ｔ）
《大宮市》
橋本正晴（南小Ｐ）　古田富美子（春里中Ｐ）
茂木芳英（東小Ｐ）　鵜篭雅之（三橋中Ｐ）
見川和明（馬宮中Ｐ）　斉藤千絵（見沼小Ｐ）
島村道宏（別所小Ｔ）
《与野市》
望月三之（与野西中Ｐ）　徳永茂（与野東中Ｐ）
金子文江（大戸小Ｐ）　赤岩真理子（西北小Ｐ）
芳賀義宣（与野南中Ｐ）　大竹一十（大戸小Ｔ）
新藤和順（与野市生涯学習課）

初代さいたま市ＰＴＡ協議会役員

［理事］
会長　橋本正晴（大宮南小Ｐ）
副会長　高橋政雄（東浦和中Ｐ）
望月三之（与野西中Ｐ）
茂木芳英（大宮東小Ｐ）
総務　森信裕（仲本小Ｔ）
広報　徳永茂（与野東中Ｐ）
寺尾美恵子（大戸小Ｐ）
事業　斉藤千絵（見沼小Ｐ）
情報　小泉修一（三室中Ｐ）
財務　杉浦小百合（原山中Ｐ）
［会計］
横溝和夫（上小小Ｐ）
［監事］
富田典孝（原山小Ｐ）
竹本昭剛（大宮東中Ｔ）

新たなるステージへ

平成十五年四月にさいたま市が政令指定都市へ移行するに伴い、旧三市のブロック体制から新しく誕生する区ごとに九つの連合会に再編することになった。政令指定都市発足と同時期に区連を発足するための準備の年となった。

○第五十回日本ＰＴＡ全国研究大会　埼玉大会協力

大会スローガン

「育もうゆとりの中で〃生きる力を〃」

埼玉県内の九つの会場において開かれ、さいたま市内では「ソニックシティ」（大宮ブロック担当）「埼玉会館」（与野ブロック担当）「さいたま文化センター」（浦和ブロック担当）で分科会、「さいたまスーパーアリーナ」（大宮ブロック担当）で全体会が催された。

この年より新学習指導要領、学校完全週五日制が導入されることにより、教育現場は大きく変わろうとしていた中で、ＰＴＡとしての課題は何か、また、その役割は何か、ということが見える大会となった。



[埼玉大会 全体会]
長嶋茂雄氏、徳光和夫氏による
記念講演「夢」

○市Ｐ協ホームページ立ち上げ



広報紙コンクール受賞作品

	小学校の部		中学校の部	
	広報紙名	ＰＴＡ名	広報紙名	ＰＴＡ名
金賞	のだ	野田小	つどい	土合中
銀賞	はりがや	針ケ谷小	うちや	内谷中
銀賞	あおば	与野西北小	新樹	第二東中
銀賞	みどり野	大門小	もとぶと	本太中
銅賞	つちあい	土合小	東浦和	東浦和中
銅賞	たかさご	高砂小	宮原	宮原中
銅賞	みぬま	見沼小	おおやば	大谷場中
銅賞	つじ	辻小	大宮南中だより	大宮南中
銅賞	松ぼっくり	大砂土東小	みはし	三橋中
銅賞	なかお	中尾小	ときわ	常磐中
銅賞	にっしん	日進小		
銅賞	みやまえ	宮前小		
銅賞	ぽぷら	日進北小		
銅賞	海老沼	海老沼小		
銅賞	おおさと	大砂土小		

平成十四年度さいたま市ＰＴＡ協議会役員

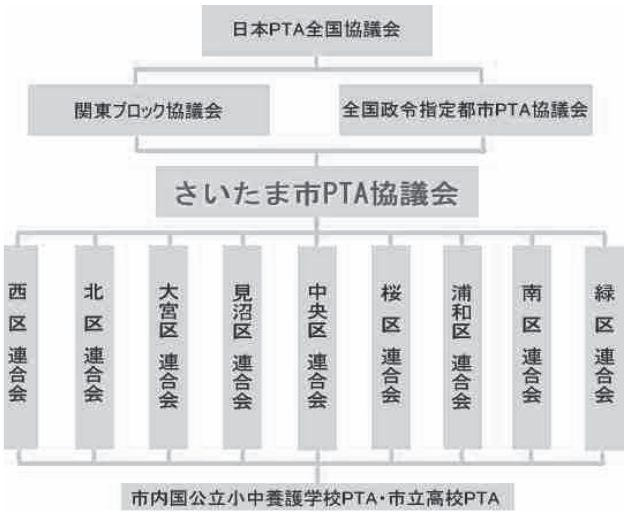
［理事］
会長　橋本正晴（大宮南中Ｐ）
副会長　望月三之（与野西中Ｐ）
玉井哲夫（上木崎小Ｐ）
茂木芳英（大宮東小Ｐ）
竹本昭剛（大宮東中Ｔ）
総務　小久保明夫（与野本町小Ｐ）
広報　吉田みすず（上落合小Ｐ）
事業　向江正晃（片柳中Ｐ）
情報　小泉修一（三室中Ｐ）
財務　櫻井喜久司（浦和大里小Ｐ）
［会計］
横溝和夫（上小小Ｐ）
［監事］
田代昭子（土合中Ｐ）
船越忠男（大宮小Ｔ）
［顧問］
徳永茂（前理事）

市Ｐ協
シンボルマーク
決定！

PTA
saitama.city

さいたま市が政令指定都市に！9つの区連合会がスタート

四月の政令指定都市移行にともない、埼玉県ＰＴＡ連合会より独立し、日本ＰＴＡ全国協議会の正会員として活動を始めることとなった。これにより、関東ブロックや政令指定都市などの地方協議会ともダイレクトに情報交換が行えるようになった。内部組織としては、区制施行に合わせたそれぞれ九つの連合会を立ち上げ、特色ある活動が可能になる体制を整えた。また、本会全体の運営は、各区から三名の理事を選出し、理事会での協議決定に基づき進めていくこととなった。



広報紙コンクール受賞作品

小学校の部										中学校の部					
優秀賞			優良賞				特別賞			優秀賞		優良賞			
広報紙名	ひまわり	みぬまのだ	片柳小ＰＴＡだより	みどり野	なかもと	文蔵	つちあい	みやまえ	わかごま	わかば	つゆくさ	はるのおおまきつじ	HARUNO	つどい	おおやば	やわらぎ	つつじヶ丘	うちや	春里	東風（こち）	尾間木中
ＰＴＡ名	常磐北小	見沼小	野田小	片柳小	大門小	仲本小	文蔵小	土合小	宮前小	谷田小	向小	島小	春野小	大牧小	辻小	春野中	土合中	大谷場中	三室中	木崎中	内谷中	春里中	与野東中	尾間木中

＊優秀作品は日Ｐコンクールへ出品

10年間のあゆみ

平成十五年度さいたま市ＰＴＡ協議会役員

［理事］
会長　橋本正晴（大宮南中Ｐ）
副会長　茂木芳英（大宮東小Ｐ）
向江正晃（片柳中Ｐ）
天野博（与野東中Ｐ）
玉井哲夫（上木崎小Ｐ）
栗原猛（善前小Ｐ）
猪野亮（仲町小Ｔ）
総務　小田公一（大宮別所小Ｐ）
吉田修三（大宮西中Ｐ）
組織運営　角田猛（土呂中Ｐ）
藤田吉美（海老沼小Ｐ）
吉野喜八（与野八幡小Ｐ）
興津武志（土合中Ｐ）
事業　張信子（西浦和小Ｐ）
山崎聡亮（大砂土東小Ｐ）
齋藤博一（大宮南中Ｐ）
吉野勝則（常盤小Ｐ）
添田一（常盤中Ｐ）
広報　境野明美（土呂中Ｐ）
金子文江（与野南中Ｐ）
島村徹（上大久保中Ｐ）
篠原唯史（尾間木中Ｐ）
情報　清宮輝雄（栄小Ｐ）
原口久美子（中島小Ｐ）
木村美穂（大谷場中Ｐ）
伊関友伸（芝原小Ｐ）
財務　配島雅勝（馬宮東小Ｐ）
榎本昇（大牧小Ｐ）
［監事］
菊川忠裕（土屋中Ｐ）
今村信博（常盤中Ｔ）
［顧問］
望月三之（前副会長）

岩槻市ＰＴＡ連合会と合併協定を結ぶ



平成十七年四月一日にさいたま市が岩槻市と合併することに合わせてＰＴＡ連合会も合併する運びとなり、臼杵教育長と両会役員が見守る中、岩槻市Ｐ連小島会長と市Ｐ協向江会長は合併協定書に調印した。



○役員セミナー

橋本会長から向江会長にバトンタッチをしたこの年、役員セミナーが初めて開催された。初めて役員を受けた人にもＰＴＡを十分理解できるようにと、教育委員会や市Ｐ協の運営のことなどについて、わかりやすく説明し、役員が日々勉強していくきっかけづくりとした。



橋本顧問、事務局による市Ｐ協についての説明

○広報紙の名前と口ゴが決定！

市Ｐ協 さいたま

広報紙コンクール受賞作品

小学校の部			中学校の部		
優秀賞	広報紙名	ＰＴＡ名	優秀賞	広報紙名	ＰＴＡ名
	さかえ	栄小		つどい	土合中
	ひまわり	常盤北小		東風（こち）	与野東中
	な・か・じ・まＰＴＡ	中島小		うちや	内谷中
優良賞	しびらき	新開小	優良賞	尾間木	尾間木中
	わかごま	谷田小		やわらぎ	三室中
	さかわ	栄和小		わだち	田島中
	みやまえ	宮前小		八王子	八王子中
	ふたば	大谷場小		かたやなぎ	片柳中
	みなみ	与野南小		八幡	大宮八幡中
	つちあい	土合小		南十字星	与野南中
	にっしん	日進小		ひがしうらわ	東浦和中
	なかもと	仲本小			
	しらさぎ	上木崎小			
佳作	三つの橋	三橋小	佳作		
	のだ	野田小			
	おおまき	大牧小			

平成十六年度さいたま市ＰＴＡ協議会役員

［理事］

会長
向江正晃（片柳中Ｐ）

副会長
茂木芳英（大宮北中Ｐ）
玉井哲夫（上木崎小Ｐ）
栗原猛（善前小Ｐ）
原口久美子（土合中Ｐ）
山崎聡亮（大砂土東小Ｐ）
鈴木一夫（大原中Ｔ）

総務
配島雅勝（馬宮東小Ｐ）
山口一男（大宮別所小Ｐ）
鳥居夏樹（大宮東中Ｐ）
吉野喜八（与野八幡小Ｐ）
榎本雅昭（大久保小Ｐ）
張　信子（西浦和小Ｐ）

事業
若谷充男（野田小Ｐ）
山田真治（馬宮西小Ｐ）
大井信一（植竹中Ｐ）
内田誠之郎（下落合小Ｐ）
吉野勝則（常盤小Ｐ）

広報・情報
榎本昇（大牧小Ｐ）
境野明美（土呂中Ｐ）
清宮輝雄（栄小Ｐ）
井上健悟（大宮東中Ｐ）
新田敦子（大宮八幡中Ｐ）
園山幹生（上落合小Ｐ）
井原光太郎（栄和小Ｐ）
小寺靖子（大原中Ｐ）
暮泉圭二（岸中Ｐ）
伊関友伸（芝原小Ｐ）

［監事］
菊川忠裕（土屋中Ｐ）
鈴木勝雄（常盤小Ｔ）

［顧問］
橋本正晴（前会長）

岩槻区が加わり10区で新たなスタート

岩槻区小島信昭会長より「区の色と同じ鮮やかなやまぶき色のような運営を目指していきます。」



岩槻区P連の事業を拡大してのビーチボール大会

○教育委員会との懇話会

市P協設立当初から開催してきた教育委員会との交流会とは別に、より情報交換を密にするため、この年より新たに懇話会を開催することになった。

初回は、「良い学校とは」をテーマに、市P協副会長で城西大学助教授の伊関 友伸氏をファシリテーターとしてワークショップ形式で行い、活発な意見交換が行われた。





○赤城・舘岩少年自然の家 視察研修

「子どもたちが宿泊体験する施設に実際 に肌で触れ、保護者の立場で施設のあり方や整備・充実について考えてみよう」と始まった。



広報紙コンクール受賞作品

小学校の部

優秀賞	広報紙名	PTA名
	ときわ	常盤小
	わかごま	谷田小
	たかさご	高砂小
	さかえ	栄小
	みやまえ	宮前小
	つちあい	土合小
	のだ	野田小
	さかわ	栄和小
	ひまわり	常盤北小
	おおまき	大牧小
	つじ	辻小
	みぬま	見沼小
	やまびこ	大谷場東小
	ゆずり葉	下落合小
	おおと	大戸小
	しらさぎ	上木崎小

中学校の部

優秀賞	広報紙名	PTA名
	つどい	土合中
	八王子	八王子中
	尾間木	尾間木中
	やわらぎ	三室中
	おおやば	大谷場中
	大成中PTAだより	大成中
	柏陽中だより	柏陽中
	なぎさ	岸中
	宮前	宮前中
	東中PTAだより	大宮東中

平成十七年度さいたま市PTA協議会役員

［理事］

会長	向江 正晃	（片柳中P）
副会長	茂木 芳英	（大宮北中P）
	玉井 哲夫	（大原中P）
	原口 久美子	（土合中P）
	伊関 友伸	（芝原小P）
	新田 敦子	（大宮八幡中P）
総務	飯田 一恵	（本太小T）
	石田 知	（指扇小P）
	平山 雅敏	（宮原小P）
	山﨑 泰生	（大宮小P）
	榎本 雅昭	（大久保小P）
	中村 友美	（常盤北小P）
	田所 龍雄	（内谷中P）
	若谷 充男	（野田小P）
	佐藤 倫子	（桜山中P）
事業	江本 英仁	（東大成小P）
	神生 ともえ	（与野南中P）
	吉野 勝則	（常盤小P）
	天辰 武夫	（浦和別所小P）
	榎本 昇	（大牧小P）
	配島 雅勝	（馬宮東小P）
広報・情報	天野 雅裕	（大砂土中P）
	吉野 喜八	（与野八幡小P）
	長久保 学	（西原小P）
	清宮 輝雄	（栄小P）
	二重作 和久	（泰平小P）
	小板橋 通泰	（大宮北小P）
	岡崎 和彦	（上落合小P）
	井原 光太郎	（栄和小P）
	小林 直太	（大谷場東小P）
	池田 正二	（和土小P）

［監事］

菊川 忠裕	（土屋中P）
大竹 隆一	（岸中T）

［顧問］

橋本 正晴	（前会長）

第１回市Ｐ協研究大会開催

例年行っている役員等研修会の代わりに、市Ｐ協として初めての研究大会を開催。

［研究主題］様々なコミュニケーションの手法を体験を通して学ぶ
［主催］さいたま市ＰＴＡ協議会
［後援］さいたま市教育委員会
［開催日］平成十九年一月二十三日
［会場］シーノ大宮（センタープラザ）
［参加者］各校ＰＴＡ代表者一名
教職員十二名程度

〔第一分科会〕インプロ入門
▽感じるままに動いてみよう
〔第二分科会〕ファシリテーション入門
▽活性化したＰＴＡをつくるには
〔第三分科会〕親と子のコーチング入門
▽子どもと接するためのヒント
〔第四分科会〕アサーティブ・トレーニング入門
▽さわやかな自己表現を学ぶ



〔第五分科会〕
これからの特別支援教育入門
▽教育的特別支援が必要なこどもたちとのよい関係作りを学ぶ
〔第六分科会〕広報の技術入門
▽人に考えを伝えるには



分科会の様子

広報紙コンクール受賞作品

小学校の部

優秀賞	広報紙名	ＰＴＡ名
	つじ	辻小
	やまびこ	大谷場東小
	なかお	中尾小
	みんなのＰＴＡ	与野八幡小
	むつみ	仲町小
	みなみ	与野南小
	わかごま	谷田小
	さかえ	栄小
	なかもと	仲本小
	つちあい	土合小
	ひまわり	常盤北小
	さしおうぎ	指扇小
	松ぼっくり	大砂土東小
	おおまき	大牧小
	ときわ	常盤小
	みやまえ	宮前小

佳作	広報紙名	ＰＴＡ名
	つどい	土合中
	うちや	内谷中
	東浦和	東浦和中
	尾間木中	尾間木中
	銀杏	植竹中
	やわらぎ	三室中
	なぎさ	岸中
	大成中ＰＴＡだより	大成中
	ＴＯＲＯ	土呂中
	にっしん	日進中
	しらはた	白幡中

中学校の部

優秀賞	広報紙名	ＰＴＡ名
	つどい	土合中
	うちや	内谷中
	東浦和	東浦和中
	尾間木中	尾間木中
	銀杏	植竹中
	やわらぎ	三室中
	なぎさ	岸中
	大成中ＰＴＡだより	大成中
	ＴＯＲＯ	土呂中
	にっしん	日進中
	しらはた	白幡中

佳作	広報紙名	ＰＴＡ名
	つじ	辻小
	やまびこ	大谷場東小
	なかお	中尾小
	みんなのＰＴＡ	与野八幡小
	むつみ	仲町小
	みなみ	与野南小
	わかごま	谷田小
	さかえ	栄小
	なかもと	仲本小
	つちあい	土合小
	ひまわり	常盤北小
	さしおうぎ	指扇小
	松ぼっくり	大砂土東小
	おおまき	大牧小
	ときわ	常盤小
	みやまえ	宮前小

平成十八年度さいたま市ＰＴＡ協議会役員

［理事］
会　長　向江正晃（片柳中Ｐ）
副会長　茂木芳英（大宮北中Ｐ）
　　玉井哲夫（大原中Ｐ）
　　原口久美子（土合中Ｐ）
　　伊関友伸（芝原小Ｐ）
　　神生ともえ（与野南中Ｐ）
総　務　大竹隆一（岸中Ｔ）
　　菊川忠裕（土屋中Ｐ）
　　角田猛（大砂土小Ｐ）
　　渡辺紀子（大谷中Ｐ）
　　榎本雅昭（大久保小Ｐ）
　　吉野勝則（常盤中Ｐ）
　　田所龍雄（内谷中Ｐ）
　　若谷充男（野田小Ｐ）
事　業　新井森夫（徳力小Ｐ）
　　菊池英二（宮前小Ｐ）
　　浅川光行（植竹小Ｐ）
　　本多均（三橋小Ｐ）
　　本橋修（善前小Ｐ）
　　榎本昇（大牧小Ｐ）
　　中村友美（常盤北小Ｐ）
　　天野雅裕（大砂土中Ｐ）
　　吉野喜八（与野八幡小Ｐ）
　　長久保学（西原小Ｐ）
広報・情報　清宮輝雄（栄小Ｐ）
　　益江朋紀（植竹中Ｐ）
　　山﨑泰生（大宮小Ｐ）
　　岡崎和彦（上落合小Ｐ）
　　田辺雄一（中島小Ｐ）
　　小林直太（大谷場東小Ｐ）
　　中里のり子（慈恩寺中Ｐ）
［監事］
　　大澤和治（土合小Ｐ）
　　加々美健一（大宮小Ｔ）
［顧問］
　　橋本正晴（前会長）

第63回指定都市ＰＴＡ連絡協議会研究大会をさいたま市で開催

豊かな人間関係に基づいた社会に結びつくことを目的に研究大会を開催。一日目は研究主題について四つの分科会を行い、二日目はさいたま市協力のもと体験講座を行った。

［研究主題］様々なコミュニケーションの手法を体験を通して学ぶ
［主催］指定都市ＰＴＡ連絡協議会
　さいたま市ＰＴＡ協議会
［後援］さいたま市・さいたま市教育委員会
［開催日］平成十九年九月二十七日・二十八日
［会場］大宮ソニックシティ
［参加者］十三指定都市より約百三十名



大宮駅構内の案内板と向江実行委員長

一日目
〔第一分科会〕インプロ入門
〔第二分科会〕ファシリテーション入門
〔第三分科会〕親と子のコーチング入門
〔第四分科会〕アサーティブ・トレーニング入門
二日目
「潤いの時間」体験講座
〔第一・二分科会〕
　小中一貫英会話
〔第三・四分科会〕
　人間関係プログラム



広報紙コンクール受賞作品

小学校の部

広報紙名	ＰＴＡ名
優秀賞 むつみ	仲町小
優秀賞 たかさご	高砂小
優秀賞 なかもと	仲本小
優秀賞 さかえ	栄小
優秀賞 わかごま	谷田小
優秀賞 松ぼっくり	大砂土東小
優秀賞 ひまわり	常盤北小
優秀賞 さくらぎ	桜木小
優秀賞 ときわ	常盤小
優秀賞 な・か・じ・まＰＴＡ	中島小
優秀賞 しらさぎ	上木崎小
佳作 北浦和	北浦和小
佳作 にっしん	日進小
佳作 みやまえ	宮前小
佳作 うえたけ	植竹小
佳作 みんなのＰＴＡ	与野八幡小

中学校の部

広報紙名	ＰＴＡ名
優秀賞 つどい	土合中
優秀賞 宮前	宮前中
優秀賞 やわらぎ	三室中
佳作 さいたま八王子	八王子中
佳作 岩中ＰＴＡだより	岩槻中
佳作 つちや	土屋中
佳作 つくしんぼ	浦和養護
佳作 おおとり	埼大附属中
佳作 西中ＰＴＡ	与野西中
佳作 ＴＯＲＯ	土呂中
佳作 銀杏（いちょう）	植竹中

☆仲町小「むつみ」が全国小中学校ＰＴＡ広報紙コンクールで日本教育新聞新聞社社長賞を受賞
☆三室中「やわらぎ」が同コンクールで佳作を受賞

平成十九年度さいたま市ＰＴＡ協議会役員

［理事］
会　長　天野雅裕（大砂土中Ｐ）
副会長　長久保学（西原小Ｐ）
　神生ともえ（与野南中Ｐ）
　田所龍雄（内谷中Ｐ）
　渡辺紀子（大谷中Ｐ）
　若谷充男（野田小Ｐ）
　守富勝男（高砂小Ｔ）
総　務　泉　昇（市立養護Ｐ）
　山﨑通弘（泰平中Ｐ）
　山﨑泰生（大宮小Ｐ）
　吉野喜八（与野八幡小Ｐ）
　志村巌（上大久保中Ｐ）
　玉井哲夫（大原中Ｐ）
事　業　水野浩美（西浦和小Ｐ）
　榎本昇（大牧小Ｐ）
　老川貴也（植水中Ｐ）
　飯沼章（日進中Ｐ）
　山田祐司（桜木小Ｐ）
　宮本英典（島小Ｐ）
　榎本泰助（大久保東小Ｐ）
　中村友美（常盤北小Ｐ）
広報・情報　本橋修（善前小Ｐ）
　奥山健児（美園中Ｐ）
　秋山春美（慈恩寺中Ｐ）
　山田真治（馬宮中Ｐ）
　川村清志（東大成小Ｐ）
　根岸俊幸（桜木中Ｐ）
　高島清（上落合小Ｐ）
　田辺雄一（中島小Ｐ）
　高瀬伸江（仲本小Ｐ）
　新井森夫（徳力小Ｐ）
［監事］
　都築英生（馬宮東小Ｐ）
　鳥塚正二（大宮北中Ｔ）
［顧問］
　向江正晃（前会長）

さいたま市ＰＴＡ協議会ＰＴＡ活動総合補償制度始まる

平成十五年に政令指定都市となると同時に埼玉県ＰＴＡ連合会より独立したが、ＰＴＡ活動時の補償制度は引き続き埼玉県ＰＴＡ安全互助会に加入させていただいていた。平成十七年に保険業法が一部改正され、それがＰＴＡの行う互助会制度にも適用されることになり、これまでの互助会制度の見直しを余儀なくされた。独立時に懸案事項でもあったことから、約二年間の準備期間を経て、市Ｐ協独自に設計した補償制度を保険会社に委託することとなった。

○舘岩少年自然の家　視察研修

平成十七年度に始まった視察研修の流れを汲むもので、平成二十年度の新たな取り組みとして、子どもたちと同じ活動を体験するだけではなく、ボランティアとして「環境整備活動」が新たに加えられた。

裏山に登下山するための木段づくり、施設周辺の側溝清掃、花壇の除草作業などの作業を所員の方たちと参加者たちが一緒になって、大汗をかきながら行った。



○市Ｐ協ホームページ　リニューアル



広報紙コンクール受賞作品

小学校の部

優秀賞	広報紙名	ＰＴＡ名
佳作	な・か・じ・まＰＴＡ	中島小
佳作	松ぼっくり	大砂土東小
佳作	つちあい	土合小
佳作	しびらき	新開小
佳作	ひがし	大宮東小
佳作	むつみ	仲町小
佳作	やまびこ	大谷場東小
佳作	海老沼	海老沼小
佳作	たかさご	高砂小
佳作	わかごま	谷田小
佳作	みなみ	与野南小
佳作	なかもと	仲本小
佳作	さかえ	栄小
佳作	北浦和	北浦和小
佳作	つゆくさ	島小

中学校の部

優秀賞	広報紙名	ＰＴＡ名
優秀賞	つどい	土合中
佳作	西中ＰＴＡ	与野西中
佳作	おおやば	大谷場中
佳作	つちや	土屋中
佳作	やわらぎ	三室中
佳作	岩中ＰＴＡだより	岩槻中
佳作	大久保	大久保中
佳作	はらやま	原山中
佳作	宮前	宮前中
佳作	東中だより	大宮東中

☆土屋中「つちや」が全国小中学校ＰＴＡ広報紙コンクールで教育家庭新聞社社長賞を受賞

平成二十年度さいたま市ＰＴＡ協議会役員

［理事］
会長　渡辺紀子（大谷中Ｐ）
副会長　長久保学（西原小Ｐ）
山﨑泰生（大宮小Ｐ）
榎本泰助（大久保東小Ｐ）
中村友美（常盤中Ｐ）
本橋修（善前小Ｐ）
井出英（東浦和中Ｔ）
総務　山田真治（馬宮中Ｐ）
宮下慎一（泰平小Ｐ）
山田祐司（桜木小Ｐ）
宮本英典（島小Ｐ）
吉野喜八（与野八幡小Ｐ）
田辺雄一（中島小Ｐ）
磯田和男（仲町小Ｐ）
中山博貴（大谷口中Ｐ）
榎本昇（大牧小Ｐ）
置鮎俊一（指扇小Ｐ）
事業　山本重樹（日進小Ｐ）
中野栄寿（東宮下小Ｐ）
神生ともえ（与野南中Ｐ）
長内繁（土合中Ｐ）
平松昭浩（浦和中Ｐ）
吉田明彦（浦和別所小Ｐ）
西野幸代（尾間木中Ｐ）
新井森夫（徳力小Ｐ）
國井英俊（宮前中Ｐ）
広報・情報　飯塚博之（大宮別所小Ｐ）
栁田英樹（三橋小Ｐ）
高島清（上落合小Ｐ）
星野恵美子（中尾小Ｐ）
秋山春美（慈恩寺中Ｐ）
［監事］
川村清志（東大成小Ｐ）
木村栄二（高砂小Ｔ）
［顧問］
天野雅裕（前会長）
向江正晃（元会長）

第二回市Ｐ協研究大会開催

約三年ぶり二回目の市Ｐ協主催の研究大会が開催された。

［目的］「家庭教育の向上」について学ぶとともに、各区連の活動について情報交換を行い、活動の活性化を図る。

［開催日］平成二十二年十一月十二日

［会場］シーノ大宮

［参加者］全体会：各校ＰＴＡ会長
分科会：各区連合会代表五名

〔講演会〕家庭教育について
講師 東京聖栄大学教授 岡田弘氏
「人間関係プログラム」作成委員会の委員長を務めた講師により、参加者をペアにした意見交換を交えた参加型で行われた。



〔第一分科会〕
区連情報交換
出席者全員が各区連の事業内容を説明後、「会長・校長会のあり方」や「会議内容のあり方」について情報交換がなされた。

〔第二分科会〕家庭教育力について意見交換
「ＰＴＡ活動が本来の家庭教育学級の目的から会員の趣味的なものに偏っていないか。生涯学習という視点からすると否定できないが、親としてどうあるべきか」という視点から意見交換が活発に行われた。

広報紙コンクール受賞作品

小学校の部

優秀賞	広報紙名	ＰＴＡ名
	たかさご	高砂小
	大けやき	大久保東小
	な・か・じ・まＰＴＡ	中島小
	なかもと	仲本小
	とわ	原山小
	むつみ	仲町小
	つじ	辻小
	北浦和	北浦和小
	海老沼	海老沼小
	くすの木	七里小
	みぬま	見沼小
	つちあい	土合小
	さかえ	栄小
	すずや	鈴谷小
	かみおちあいＮＥＷＳ	上落合小

中学校の部

優秀賞	ＰＴＡ名
つどい	土合中
はらやま	原山中
西中ＰＴＡ	与野西中
大久保	大久保中
つちや	土屋中
なぎさ	岸中
ＴＯＲＯ	土呂中
やわらぎ	三室中
おおとり	埼大附属中
さいたま八王子	八王子中

☆大久保中「大久保」が全国小中学校ＰＴＡ広報紙コンクールで教育家庭新聞社社長賞を受賞

平成二十一年度さいたま市ＰＴＡ協議会役員

［理事］
会長　渡辺紀子（大谷中Ｐ）
副会長　中村友美（常盤中Ｐ）
新井森夫（徳力小Ｐ）
榎本泰助（大久保東小Ｐ）
吉田明彦（浦和別所小Ｐ）
本橋修（善前小Ｐ）
木村栄二（高砂小Ｔ）
置鮎俊一（指扇小Ｐ）
高橋努（大砂土小Ｐ）
山田祐司（桜木小Ｐ）
宮本英典（島小Ｐ）
吉野喜八（与野西中Ｐ）
井原光太郎（上大久保中Ｐ）
中山博貴（大谷口中Ｐ）
榎本昇（大牧小Ｐ）
保坂和夫（土屋中Ｐ）
澤登直子（泰平中Ｐ）
坂本甲次（大成小Ｐ）
鵜沢勇（見沼小Ｐ）
大野相善（八王子中Ｐ）
吉野康幸（土合小Ｐ）
磯田和男（仲町小Ｐ）
畠山桃子（原山中Ｐ）
老川千夏（城北中Ｐ）
総務　鎌田兼司（宮前小Ｐ）
事業　若林一彦（日進中Ｐ）
広報・情報　柳田英樹（三橋小Ｐ）
荒井哲（鈴谷小Ｐ）
森俊朗（上木崎小Ｐ）
笠井健太（尾間木小Ｐ）
髙野幸男（西原小Ｐ）

［監事］
北村政則（大宮東小Ｐ）
横田守正（宮原中Ｔ）

市P協創立10周年

全国のPTA協議会として、六十一番目に発足したさいたま市PTA協議会は、保護者並びに教職員の皆様のご協力のもと、教育委員会や地域の皆様のご支援をいただき、十周年を迎えることとなった。

記念式典・祝賀会

平成二十二年十一月四日
大宮ソニックシティ市民ホール



市P協 主な事業

○定期総会・懇談会
○役員セミナー
○役員研修会
○少年自然の家視察研修
○教育委員会交流会
○教育委員会懇話会
○広報紙づくり講習会
○広報紙コンクール
○広報紙発行・ホームページ運営
○日本PTA全国研究大会
○指定都市PTA情報交換会
○関東ブロック研究大会
○サークル活動の後援
　バドミントン大会・卓球大会
　ビーチボール大会・コーラス祭



△定期総会





△役員セミナー

常任理事会をつくり組織再編

会則を変更し、新たに常任理事会を設けることとなった。正副会長会と常任理事会の役割を明文化した。

（常任理事会）

第20条　常任理事会は、正副会長及び常任理事をもって構成する。

2　常任理事会は、必要に応じて会長が招集し、議長を務める。

（正副会長会）

第21条　正副会長会は、会長及び副会長をもって構成する。

2　正副会長会は、必要に応じて会長が招集し、議長を務める。

3　正副会長会は、次の事項を審議する。

①　常任理事会に付議する事項

②　その他、会長が必要と認めた事項



鵜沢副会長
高島副会長
磯田会長
山田副会長

平成二十二年度さいたま市PTA協議会役員

［理事］

会　長　磯田和男（仲町小P）
副会長　山田祐司（桜木小P）
　　鵜沢勇（見沼小P）
　　高島清（与野東中P）

常任理事　望月秀登志（常盤中T）
　　保坂和夫（土屋中P）
　　澤登直子（泰平中P）
　　船木まさこ（七里中P）
　　荒井哲（鈴谷小P）
　　井原光太郎（上大久保中P）
　　中山博貴（大谷口中P）
　　笠井健太（尾間木小P）
　　新井森夫（徳力小P）
　　井坂功（馬宮東小P）

事　業　荒井清司（日進北小P）
　　石田幸弘（大成中P）
　　小山哲司（八王子中P）
　　武藤敏男（中島小P）
　　森谷行雄（高砂小P）
　　手塚健一（谷田小P）
　　畠山桃子（原山中P）
　　老川千夏（城北中P）

広報・情報　根岸稔（馬宮西小P）
　　高松正毅（大砂土小P）
　　坂本甲次（大成小P）
　　相澤秀行（春岡小P）
　　松山克彦（大久保東小P）
　　森　俊朗（上木崎小P）
　　小林直太（大谷場中P）
　　山﨑充晴（三室中P）
　　髙野幸男（西原小P）

［監事］

　　久保田勲（春里中P）
　　川瀬敏行（北浦和小T）

西　区

西区連合会は、小学校八校・中学校六校そして特別支援学校二校の計十六校で構成されています。西区連合会では、地域連携の事業として大きな二つの事業を行っています。

一つ目は、『夏休み小・中学生作品展』です。始めたきっかけは、より多くの子どもたちを表彰する（ほめてあげる）ことで、子どものやる気を出させたり、可能性を引き出してあげることができるのではないかとの考えからです。西区役所と学校の後援を得て、西区役所一階ロビーにて一ヶ月の展示期間で行われています。募集部門は、工作・創意工夫の部門、図画・ポスターの部門、書道の部門です。



さいたま市西区役所にて

子どもたちの笑顔のために

平成２２年度活動テーマ

それぞれ小学校低学年、高学年、中学校、特別支援学校・特別支援学級と分けて表彰しています。すでに八回を数えるまでになりました。

二つ目は、『西区中学生スポーツ大会』です。さいたま市が誕生した年から中学校体育連盟が主催するスポーツ大会が年三回から二回に減少したことを機に、始めました。こちらは、開催までにいろいろな課題（種目・会場・時期及び対象とする学年）がありましたが、青少年育成さいたま市民会議西区連絡会との共催を図りながらクリアしました。ＰＴＡが種目と開催時期を決定し、青少年育成さいたま市民会議西区連絡会が会場と予算を受け持ち、体育スポーツ振興会西区連絡会が一部種目の審判を担当することにしました。二〇〇六年に『西区中学生サッカー大会』を実施し、西区の全中学校が参加するという成果が見られました。現在では、サッカー以外に野球・ソフトボール・バスケットボール男女・ソフトテニス男女・剣道男女と六種目九競技を開催しています。

歴代西区連合会長

初代：酘島　雅勝（平成 15～17）		２代：菊川　忠裕（平成 18）	
３代：菊池　英二（平成 19）		４代：山田　真治（平成 20）	
５代：置鮎　俊一（平成 21）		６代：保坂　和夫（平成 22）	


秋葉の森サッカー場にて

北　区

北区連合会では、十七校の小中学校、高等学校、ろう学校、特別支援学校で構成されています。五月の区総会を軸に、校長会長会と会長副会長会を二回ずつ行い、区としての意思決定と各学校間の意見交換を行っています。

平成二十一年四月には市内一〇二番目の小学校としてつばさ小学校が開校し新たにＰＴＡも発足しました。各ＰＴＡが独自の特色を持った取り組みをしています。最近では父親のボランティア参加の動きが活発になってきています。


植竹小学校


植竹中学校


大砂土小学校


大宮別所小学


埼玉大学教育部附属特別支援学校


泰平小学校


泰平中学校


つばさ小学校


土呂中学校


日進小学校


日進北小学校


日進中学校


東大成小学校


宮原小学校


宮原中学校

「おやじの会」等の名称で学校行事のお手伝い、校内整備、資源回収の意識付けなど各学校の「おやじの会」の間での意見交換も行われています。

今後、更に学校と家庭と地域とが親密に連携を組んで、のびのびと朗らかな環境作りに取り組んでいきたいと思います。

平成二十一年十月十六日、第四十一回日本ＰＴＡ関東ブロック研究大会（山梨大会）でさいたま市立植竹小学校が「学習支援ボランティアの活動」について発表しました。（大会資料より抜粋）

授業中にキレる子、教室外に出て行ってしまう子などがいるため、落ち着いた授業ができないという事態が起きていました。この頃はまだ「特別支援教育」というもの自体がＰＴＡ内に理解されていなかったため、残念なことに事態がクラス単位のトラブルに発展してしまうこともありました。問題をクラス任せにせず、子どもたちを保護者全体であたたかく見守りサポートしていこうという思いから、ＰＴＡ活動の中で組織的に協力できる体制をつくろうという考えに至り、「学習支援ボランティア」を正式に立ち上げました。植竹小の子どもたちをＰＴＡだけでなく地域全体であたたかく見守り育てていく環境をつくることこそが最大の支援につながると考えるならば、自分の子どもとともに卒業するのではなく、活動を継続し、さらに活動の輪を広げていきたいと考えています。

歴代　北区連合会長

平成十五年度	小田　公一（大宮別所小）
平成十六年度	大井　信一（植竹中）
平成十七年度	江本　英仁（東大成小）
平成十八年度	浅川　光行（植竹小）
平成十九年度	山﨑　通弘（泰平中）
平成二十年度	宮下　慎一（泰平小）
平成二十一年度	高橋　努（大砂土小）
平成二十二年度	澤登　直子（泰平中）

大宮区

【連合会の活動】

大宮区連合会は、平成十五年六月十二日の設立総会で誕生し、大宮区内の小学校九校および中学校七校のＰＴＡで構成されています。平成十八年度からは、各校のＰＴＡ会長が全員役員となり、各地域間の連携を深め、タイムリーに情報交換などを行いながら、家庭、学校および地域における最善の教育環境づくりを目指して諸活動を展開しています。

また、平成十九年度からは、他の区連と連携して、二区ないし三区合同開催の講演会や副会長情報交換会などの事業を行っています。

【これまでの主な事業】

平成十五年度
三区合同正副会議（八月）
二区合同正副会議（十月）
校長会長研修会（二月）

平成十六年度
役員セミナー（一月）
校長会長合同研究会（一月）

平成十七年度
校長会長合同研究会（十二月）

平成十八年度
「人間関係プログラム」体験講座（六月）
副会長連絡会（六月）
講演会・親学セミナー（十月）
副会長連絡会（十二月）

平成十九年度
副会長連絡会（六月）
「人間関係プログラム」実施（中央区と合同開催）（十月）
副会長連絡会（中央区と合同開催）（十月）
会長校長会（十二月）
講演会（一月）

平成二十年度
副会長連絡会（六月）
会長校長会（七月）
会長教頭会（十二月）
講演会（浦和区と合同開催）（十二月）
副会長連絡会（浦和区と合同開催）（十二月）

平成二十一年度
副会長連絡会（六月）
会長校長会（七月）
会長校長会（十二月）
講演会（浦和区・見沼区と合同開催）（十二月）
副会長連絡会（浦和区・見沼区と合同開催）（十二月）

【和やかな定期総会】

定期総会は、毎年区内の小中学校のＰＴＡ会長および副会長など本部役員ならびに校長先生の参加のもと開催されます。一年の活動の総括などが行われますが、とても和やかな雰囲気の総会です。

第二部の懇親会は、和気あいあいとした空気の中で進められ、グラスを片手に旧交を温めあう姿があちらこちらに見られます。

中盤には恒例の各校のＰＴＡ紹介が行われます。校長先生と本部役員らが壇上に上がり、自己紹介や学校紹介、それぞれのＰＴＡ活動の内容を披露します。とてもユニークな紹介もあり、会場全体は賑やかになって、沸き立つような盛り上がりを見せます。交流の大きな輪が広がり、毎回、余韻を残しながら会はお開きとなります。





【歴代区連会長】

初代　齋藤　博一（平成十五年度）
二代　鳥居　夏樹（平成十六年度）
三代　茂木　芳英（平成十七・十八年度）
四代　山田　祐司（平成十九年度～）

見沼区

見沼区連合会の絆

見沼区小学校十一校・中学校七校、計十八校のＰＴＡの情報交換と連携の場として活動を進めております。この八年間においては、人間関係プログラム、親子支援プログラム、携帯電話の危険性講演会、見沼区ふれあいフェア、ＰＴＡコーラス祭に参加、ビーチボール大会も実施しております。



活動報告

大宮区・浦和区　3区合同講演会・副会長会

平成二十一年、子ども達の明るく元気な笑顔を見る為に私たち保護者が明るく元気に活動することをテーマに、西居院　廣中邦充住職のパワー溢れる講演会を開催致しました。参加した１，０００人余りの保護者から、「子どもに寄り添う事の大切さ、子どもの目線で物事を考える大切さを伝えて頂きました」と、たくさんの声を頂きました。



活動紹介

○校長・会長会

校長先生とＰＴＡ会長の集う会においては、講師をお招きし講演会とそのテーマのディスカッションを行っております。

［過去の講師］

小山健英氏（善光寺住職）
中谷茂一氏（聖学院大学助教授）
石川正夫氏（元埼玉県教育委員会委員長）
清水勇人氏（さいたま市長）
渡辺紀子氏（市ＰＴＡ協議会会長）等



○会長会・副会長会

情報の発信と連携についての会議を行っております。「ふるさと見沼」の冊子作りも会長みんなで行っています。副会長会は、毎年・必ず・絶対！ランチを含めた副会長会を開催しております。研修や会議後の食事をしながらの情報交換がとても評判です。

（平成十八年度　中央区合同開催）



○ふるさと見沼（区連情報交換誌・広報誌）

見沼区十八校の学校行事や、ＰＴＡ活動行事、各学校の特色や自慢などを１枚の紙に思いを託して、各校オリジナルで作成をしております。十八校それぞれに特色のあるページが見ものです。広報誌においては、１年間の活動の報告と周年学校紹介などを行っております。



歴代区連会長

山崎　聡亮（平成十五・十六年）
新田　敦子（平成十七年）
天野　雅裕（平成十八年）
渡辺　紀子（平成十九年）
宮本　英典（平成二十・二十一年）
船木　まさこ（平成二十二年～）



△
見沼区ＨＰより

中央区

中央区

12校連携

活動先に有りきでなく、多くの情報交換で12校の連帯意識の向上に努めています。

旧与野市のＰＴＡ連合会がそのまま行政区域で中央区連合会となりました。
小学校８校・中学校４校のＰＴＡで活動しています。

中央区連合会

12校が結ぶ ＰＴＡネットワーク

中央区連合会の理事役員は25名。各校ＰＴＡの正副会長２名と校長会より１名が参加しています。理事会は年間５回程開催され、区連の事業検討やさまざまな情報交換をおこないます。

12校ＰＴＡの連携を深めるため、ＰＴＡ会長・副会長・校長先生がそれぞれの立場から情報発信をおこない共有することで、地域に保護者同士のネットワークを築いています。


与野東中


与野西中



与野南中


八王子中


与野本町小


上落合小


大戸小


下落合小


与野西北小


鈴谷小


与野八幡小


与野南小

専門委員会

各校ＰＴＡの 活動充実にリンク

「広報委員会」「成人教育委員会」「校外対策委員会」３つの委員会が活動しています。

委員長は理事役員から選出され、他の委員は各校ＰＴＡより専門委員と本部役員の２名が参加しています。各校ＰＴＡの委員が参加することで、それぞれの取り組みや課題についての情報交換が盛んにおこなわれ、委員会本来の役割の理解と、情報交換の成果を各校ＰＴＡの活動に結びつけています。

歴代区連会長

望月　三之
天野　博　（平成15年度～）
吉野　喜八（平成16年度～）
荒井　哲　（平成22年度～）

ピックアップ 区連活動

与野市から中央区になり、全体的な活動を縮小せざる得ない部分もありましたが、区連活動を通じた各校 PTA の連携・情報交換に徐々に力点を移した活動で、12 校の連帯感を高めています。

成人教育委員会 12校合同研修会

18 年度
トークコンサート▶



成人教育を通じて会員の共同的文化活動を進めています。
親も学ぶことの大切さを確認し、成長していくことを目的に、家庭教育学級の一環として、12 校合同による講演会やコンサートなどを開催します。

副会長情報交換会





さらに一歩進んだ PTA 活動を見出すことを目的に、各校 PTA の抱える問題や実務レベルの課題など、さまざまな情報交換をおこないます。
同日に「人間関係プログラム」などの体験講座もおこない、参加者同士のコミュニケーションを深め、活発な情報交換に一役かっています。

桜　区

桜区連合会のあゆみ

平成一五年度　桜区連合会設立
　初代　興津武志会長就任
　校長・会長研修会
　「子どもの安全を守るために」
平成一六年度　第二代　榎本雅昭会長就任
平成一七年度　市Ｐ協ビーチボール大会参加
平成一八年度　「人間関係プログラム」実施
　広報情報委員会発足
平成一九年度　第三代　田辺雄一会長就任
　「人間関係プログラム」実施
　研修会
　「小・中一貫『英会話』」実施
　広報紙【さくら咲く】発行
平成二〇年度　特別講座
　校長・会長研修会
　「親子支援プログラム」実施
平成二一年度　第四代　井原光太郎会長就任
　「親子支援プログラム」実施
　ビーチボール交流会開催
　校長・会長研修会
　「地域コミュニケーション
　　～私たちにできること、
　　すべきこと～」

特別講座・研修会

校長会長研修会や役員セミナーを開催

平成二十年九月、プラザウエストさくらホールにて、講師に元さいたま市教育長・ＰＴＡ桜区連合会特別顧問　臼杵信裕先生をお招きして、桜区連合会と青少年育成桜区連絡会の共催による特別講座が開催されました。

臼杵先生のとても優しい声が会場を包み、学校・家庭・地域と子どもたちとのつながりの大切さや、躾について、実例を紹介しながら大変わかりやすくお話いただきました。



臼杵顧問による特別講座開催（平成 20 年 9 月）

桜区連合会では、設立当初より研修会を積極的に行ってきました。初年度より継続している校長・会長研修会をはじめ、役員・一般保護者向けの研修会等を開催しています。様々な研修会を行うことが、各校ＰＴＡ、桜区連合会の発展につながっています。

交流会　ビーチボール　バレー

大会開催に向け各校で練習



平成十七年度より、市Ｐ協ビーチボール大会に参加をしてきました。平成二十一年十一月には、さいたま市ビーチボール協会の皆様のご協力を得て、桜区として初めての交流会を開催しました。

ＯＢチームを含む桜区内小中学校が参加。先生方、保護者がチーム一丸となり、頑張る姿や笑顔が皆さん素敵でした。試合中には協会の皆さんに、ルールの説明やアドバイスをいただき、初めてでも楽しく参加することができたようです。

二十二年度は、大会を開催します。現在大会を目指して、各校では盛んに練習が行われています。これからもずっと楽しんでいけるように、継続してビーチボールに取組んでいきます。



浦和区

●浦和区連合会の誕生●

政令指定都市への移行と同時に、各行政区毎に連合会を設けるというさいたま市Ｐ協の方針の下、浦和区予定の各校ＰＴＡ会長をメンバーに「浦和区Ｐ連準備委員会」ができました。平成十四年十二月から三回の会議を重ね、会則・役員構成等基本的な運営方針、身近な連合会としての基本的な活動方針を策定し、平成十五年六月七日に産声を上げました。

●特色ある活動●

当連合会で特色のある活動としては、二つの委員会組織が挙げられると思います。各校のＰＴＡ会長さんだけでなく、一般のＰＴＡ役員の方々にも、積極的に区の活動に参加いただこうと作られた仕組みです。総務・事業の二つの委員会を設け、各校からそれぞれの委員会に一人ずつのＰＴＡ役員に参加いただいています。学校によって、ＰＴＡの副会長さんもいらっしゃいますし、成人教育部の一般の役員さんから二名という例もあります。

総務委員会は、区の事業が開催される際の、司会・受付・議事録などの実際の仕事を分担していただいています。

事業委員会は、事業グループと広報グループから構成されています。事業グループは、単Ｐではむずかしいが区単位なら実現できそうな事業を計画し、実施まで担当します。平成二十年度には、台東区の大正小学校の視察研修を行うなど、年毎に、意義のある活動が展開されています。

また、広報グループは、区のホームページと、区の広報紙「うらわっ子」の担当です。「うらわっ子」は、年に一度の発行ですが、一万二千部ほど刷られ、区内国公立の小中学生と教職員に、家庭数で配布されています。


うらわっ子

さらに、大宮区・見沼区との合同で開催した「教育講演会」も、特色ある活動といえるでしょう。

●「グリーン大作戦」について●

浦和区の事業として、昨年度からスタートしたものに、「グリーン大作戦」があります。

地球温暖化が問題となっている今日、子どもたちもいっしょにエコの意識を高めていけないかと動き出しました。幸い、東京ガス様、埼玉県緑化推進委員会様から助成金を頂戴することができ、学校・ＰＴＡ・地域の皆様のご理解とご協力を得て、各校にゴーヤなどのカーテンが育ち、報告会まで開催することができました。区のレベルで、このような活動が実現した意義は大きいと思います。



歴代浦和区連会長の面々

初代	玉井　哲夫	平成十五 ～ 十六年度
第二代	吉野　勝則	平成十七 ～ 十八年度
第三代	中村　友美	平成十九 ～ 二十一年度
第四代	磯田　和男	平成二十二年度 ～

南　区

概要

南区は、さいたま市の南に位置する東西に広い地域です。その中に小中学校合わせて21校あり、さいたま市で最も大所帯の組織となっています。会長会には、忙しい夜の時間帯にも関わらず、毎回20名近い会長たちが集まり、区連の事業や単会での問題など熱心に話し合っています。このチームワークの良さが南区連合会の特徴でもあります。



南区フォーラム

南区の事業の一つにフォーラム開催があります。平成17年に「いじめフォーラム」として始まったのがきっかけで、区内中学校に在籍しているさわやか相談員さんたちを迎えてパネルディスカッション形式で、子育ての悩みや子どもの成長、親としての心構えなどを話し合っています。これまで4回開催しましたが、毎回たくさんの保護者に参加を頂き、有意義な時間を過ごしています。



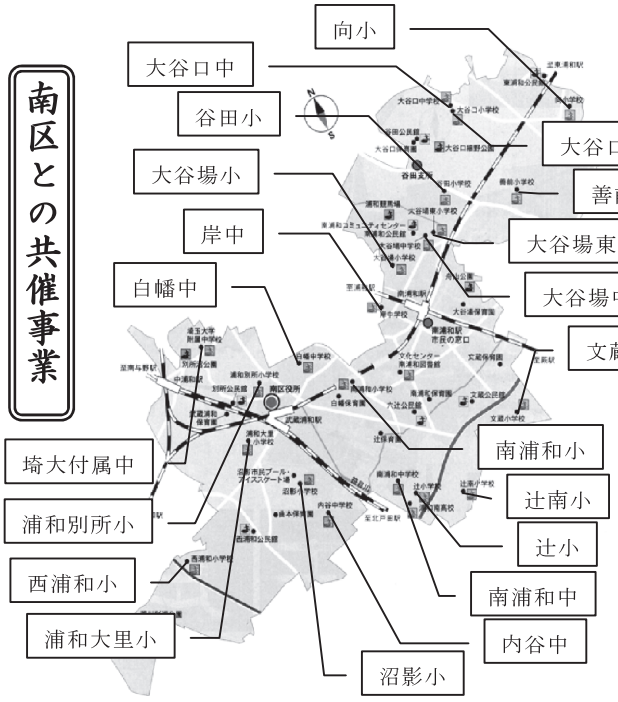
校長・会長会

校長先生とPTA会長が、様々な施設見学や体験を通して、普段なかなか接点のない、他校の校長先生とコミュニケーションをとる貴重な機会となっています。平成21年度はJAXAの地球観測センターの見学を実施しました。



南区との共催事業

秋に行なわれる「南区ふるさとふれあいフェア」、春に行なわれる「南区フェスティバル」には区連から実行委員として参加しています。運営では、大勢のPTA役員のお母さん方にお手伝い頂き、区民として区の事業への積極的な参加をしています。









設立5周年記念パーティー開催

平成15年発足後、平成20年度には5周年記念パーティーも盛大に開催され、南区連合会を作り上げてきた歴代の会長や校長先生方と現在区連を担っている現役会長たちとの交流も図られました。既に現役を引退されている方々にとっては、同窓会となり当時の思い出話に花が咲いていたようです。PTAを引退しても、地域で活躍している方々がたくさんいるのも南区連合会の特徴かもしれません。



歴代会長

15年	木村美穂
16年	栗原猛
17年	田所龍雄
18年	田所龍雄
19年	中山博貴
20年	中山博貴
21年	中山博貴
22年	中山博貴

広報誌発行

19年度より区連広報誌「南P便り」を発行しています。事業の紹介が中心ですが、より多くの方に区連の活動内容を知って頂くのが目的です。

緑　区

緑区紹介

緑区はさいたま市の南東部にあたり、台地と低地からなっています。旧石器時代以降の多くの遺跡があり、古くから人々の居住に適していたと考えられます。近世には、見沼溜井・見沼干拓・見沼通船堀といった大土木工事がなされ、なかでも見沼通船堀は国内最古級の閘門式運河として知られています。現代では、武蔵野線・埼玉高速鉄道をはじめ様々な交通網も整備され、区内中央には見沼緑地保全地域があり、緑豊かな落ち着いた住宅地となっています。また、サッカーワールドカップの会場になった埼玉スタジアム２００２、そして区隣には駒場スタジアムがあり、子どもたちに夢を与えています。

緑区Ｐ連紹介



緑区ＰＴＡ連合会は、小学校９校と中学校５校、特別支援学校１校の合計15校で組織されています。

毎年、６月の総会を経て、年度の活動が始まります。総会では、各校参加者が学校の目標や行事・ＰＴＡ活動など、特色を紹介しあいます。今年度は「学校・家庭・地域社会とのふれあいを推進するＰＴＡ活動」「地域と一体となり、自主防犯運動としての安全パトロールの展開」を活動目標に掲げ、事業を行っています。

我が区Ｐ連の特徴は、会費の安いことがあげられます。一番力を入れている活動は、校長・会長合同研究会で、校長、会長の他各校役員が集まり勉強会を行っています。定期的な会長会・活動協力委員会や必要に応じた集会を開催し、小学校同士、中学校同士、また行政機関を交えた情報交換会などを積極的に行っています。区Ｐ連の枠の中で連携して問題解決に取り組むことが、各校ＰＴＡの発展につながっています。無理のない区連活動を軸に、和やかで楽しい雰囲気の組織となっています。

緑区Ｐ連これまでの主な活動



平成15年度
緑区連合会設立
校長・会長合同研究会
テーマ「あいさつと安全のバトンタッチ」
防犯活動とその取り組みについて

平成16年年度
校長・会長合同研究会
演題「幸せな家庭を築くために」
テーマ「子供の安全　防犯・防災について」

平成17年度
校長・会長合同研究会
演題「箱根駅伝と青少年の健全育成について」
講師　平塚　潤氏　櫛部　静二氏

平成18年度
「人間関係プログラム」体験研修会開催
緑区Ｐ連活動協力委員会設置

平成19年度
校長・会長合同研究会
演題「さいたま市の教育を語る」
講師　藤間　文隆　教育長

平成20年度
校長・会長合同研究会
「親子支援プログラム」体験講座

平成21年度
校長・会長合同研究会
演題「日本一の教育都市」をめざして
講師　桐淵　博　教育長

歴代区Ｐ連会長紹介

平成15年度　篠原　唯史
平成16年度～21年度　榎本　昇
平成22年度　笠井　健太



岩槻区

他9区に遅れること3年、平成17年のさいたま市と岩槻市との合併に合せ、岩槻市連合会より岩槻区連合会へとなりました。



区内を南北に流れる元荒川と、春には約600本の桜が満開になる岩槻城址公園等、自然豊かな環境に囲まれた小学校14校・中学校8校の計22校で構成されています。



岩槻区連合会では、子どもたちの健全な育成のため、次のような活動を行っています。

■□児童生徒の安全を守るために各単Pにおいて通学路問題箇所・パトロール重点箇所の調査を行い、取りまとめをして岩槻区長へ改善を求める要望書を提出しています。

■□少年非行の抑止を目的としたポスターを作製、区内各自治会の掲示板や公共施設等に掲示して少年非行防止を広く呼びかけています。



■□学校教育の充実を促進するために視察研修、講演会を実施しています。



△ 2008年
川越～さいたま市鉄道博物館

▽ 2009年 国会議事堂 他





■□会員相互の交流を目的とした「ビーチボールバレー大会」を開催しています。

各校、一般会員チームと役員チームの構成で、役員チームには校長先生・教頭先生も加わっています。参加チーム数は50を超える規模です。





尚、ビーチボールバレー大会と視察研修は輪番制で、幹事校が企画・設営・実施をしています。

■□ 歴代岩槻区連合会長 □■

初代 小島 信昭
（平成17年度～18年度）

第2代 長久保 学
（平成19年度～20年度）

第3代 新井 森夫
（平成21年度～）

市P協の過去から未来へ

設立十周年を迎えるに当たり、市P協のこれまでを振り返り、そしてこれからを語っていただこうということで、四人の歴代会長と現会長にお集まりいただき、お話を伺った。



開催日:平成22年8月24日(火)
開催場所:大宮区役所多目的室

参加者: 右より
初代 橋本 正晴 / 二代 向江 正晃 /
三代 天野 雅裕 / 四代 渡辺 紀子 /
五代(現)磯田 和男　(敬称略)

●まず初めに初代会長の橋本さんにお伺いします。三市合併して、新しく市P協を立ち上げるまでには、数々の困難があったかと推測されます。特にどういう点が大変だったか、苦労話をお聞かせください。

〈橋本〉 気持ちとしてはそんなに苦労したということはなかったですね。ただ、実務的な部分で、旧三市の流れが全然違っていたので大変でした。浦和・与野は北足立南部に加盟し、大宮は北足立北部に加盟していたという違いがありましたし、事務局の体制が全然違っていました。大宮は、自前にお給料を支払い、事務局員さんをお願いし、桜木小学校の中に事務局がありました。与野は、教育委員会の中に退職校長先生が社会教育指導員という立場で、事務局をみていました。浦和は、やはり教育委員会の中で、社会教育課の職員が事務局として事務を執っていました。ただ、さいたま市として、大宮方式がいいという結論が出ていましたので、それをどのように立ち上げるかが大変でした。事務局の場所の候補として、最後は現在の場所とさいたま市役所内の教育委員会の中のフロアが残りましたが、最終的に広さ、独立した部屋という部分で現在の大宮区役所内に決定しました。それから資金繰りについては、浦和、与野、大宮の各ブロックから拠出したお金とさいたま市からの助成金を足して活動しました。しかし、最初の引越しの費用などが無かったので、会員に書き損じはがきの回収をしていただき、その換金した約四十万円を資金として使わせていただきました。はじめに合併させようという思いはひとつだったのですから、あとはどういう方式を、どういう手段をとるかということだったと思います。



●その思いとはどういったものだったのですか。

〈橋本〉 やはり、行政がひとつになる以上、我々も三つバラバラでいるわけにはいかない、と。教育委員会とのいろんな窓口を行う、あとは、上部のPTA団体との窓口を連合会というものは持つわけですから。要望を取りまとめて一つの団体として市に働きかけるには、やはり、まとまらないと無理だということです。

●いろんな制約がある中で、見事に合併させていただいたということですね。では、橋本さんの後を引き継がれた後の会長さん方に、どのようなことを志されて会長を引き受けられたか、その思いを語っていただきたいと思います。まず、二代目の向江さんからお願いします。

〈向江〉 組織としての市P協ではなく、個人個人が行動力のある人材の集まりとしての市P協を構築していきたいと志を決めました。それから、初代会長に続き二代目も旧大宮市出身でしたので、浦和や与野の方たちの中に飛び込んで行き、そこでいろいろな意見をいただきながら、単会の会長と市P協が同じ土俵の上に乗り、共に前進できるような仕組みづくりができればと考えました。

●向江さんの時代にはとても市P協と市教委との距離が近くなったように感じますけれども、その辺はいかがですか。

〈向江〉 当時の臼杵教育長、後任の藤間教育長と昼に、夜にと、いろいろな話をさせていただき、さいたま市としての方向性を見出して行きました。たくさんの思い出がありますが、ひとつ思い出されるのは、各単会からの要望を区でまとめ、それをさらに市でまとめて、要望書を教育委員会に提出させていただいたことです。それを機に市内



全小学校に警備員が配置されることとなりました。子どもたちの安全を守る環境づくりができ、とても嬉しかったことを覚えています。

●では三代目の天野さん、いかがですか。

〈天野〉　各単会は単会で役割が、区連は区連の役割があるということ、そして市Ｐ協は市Ｐ協の役割があって、それぞれの役割が果たされて、ひとつのＰＴＡが成り立っているということを経験上強く感じていましたので、それをみなさんに更に知っていただけるように一年間それぞれの区に行った時にはお話させていただきました。

●四代目の渡辺さん、いかがでしょうか。

〈渡辺〉　まず、私は教育委員会との関係をいい関係で、教育委員会を応援していく、また、言うべきことは言えるような市Ｐ協というものにしていかなければならないだろうと。それから、できるだけ区連の活動には参加させていただいて、各校の会長さんの声を聞くようにしました。それから、女性として、母親として、また、違った見方ができるのかなというところで、市Ｐ協の活動の中で何か取り入れていけたらなということは考えて過ごしてきました。

●いよいよここで十周年を迎えて磯田会長が就任されたわけですけれども、四人の先輩会長から引き継がれて、今年どのような志で受けられたでしょうか。

〈磯田〉　皆さんのお話を伺って、やはりその時代時代を背負っていただいた会長さんたちのご苦労と、いろいろな場面での素晴らしい対応が今につながっていると強く思います。現在九万人の会員を擁しておりますので、単会の会長さんから各区の理事、また、区連会長さんを通して市Ｐ協にあげていただいたご意見を、できるだけ市Ｐ協の中で活かしていけるような体制をとりながら、運営していきたいと考えているところです。

●次にお聞きします。市Ｐ協活動の中で一番思い入れのあった事業について、お聞かせください。



〈橋本〉　合併して、今までやっていた事業を教育委員会が一緒にやってくれるかどうか不安だった中で、大宮が行っていた教育委員会との交流会を提案したところ、市教委が快く受けてくれて、初年度に第一回が東武ホテルで実現し、それが今も続いています。これができたのは非常に嬉しかったなという思いがあります。それと、政令市になる準備を二年間ずっとやっていたわけで、中でも、外に対してもやっていたことが結構大変でした。それから私が一番嬉しかったのは、平成十六年に初めて役員セミナーを開催したこと。在任中、勉強の必要性をひしひしと感じていたものですから、新任役員の勉強会みたいなものを私がやりたい、ということを提案し、辞めた後に第一回ができたのです。

〈向江〉　交流会とは別に、教育委員会ともっと意見交換をしたいということで、懇話会としてワークショップ形式の意見交換会を行いました。お互い活発な意見交換をすることができ、大成功の会合となりました。それから、十八年度に第一回の市の研究大会を開催させていただきました。六つの分科会で、参加者自らが主催者となり参加する形の素晴らしい研究大会でした。あとは、舘岩少年自然の家の視察ですね。保護者の方にも、さいたま市の素晴らしい施設を体感していただきたいという思いで実施しました。子どもたちにとって、大自然にかこまれた舘岩での様々な経験は、何ものにも変えがたい素晴らしいものになると皆様からお声をいただきました。この体験をぜひ、さいたま市全域の子どもたちに展開できるように、これからの市Ｐ協の方々に取り組んでいただければと思います。

〈天野〉　ひとつひとつ、それぞれ思い出に残りますが、中でも平成十九年に開催した指定都市研究大会です。これは前年にさいたま市Ｐ協の研究大会があって、その下地があったおかげと、何より、かかわっていただいた多くのみなさんが、それぞれ、一生懸命やっていただいた結果、できたなと強く感じております。それから、当時の大宮北養護と浦和養護、さいたま市立養護学校のＰＴＡとさいたま市Ｐ協の正副会長での交流ということで、いろんな情報交換をさせていただいたこと。障がいを持ったお子さんたちが、卒業して独立してからは、地域に住んでいるひとりとして生活をしていかねばならないので、親御さんとしては、「つながりをしっかり持たせたい」というような思いがあることを話し合うことができたことが心に残っています。また、日Ｐ全国研究大会でパネラーを、関ブロ大会ではコーディネーターをやらせていただき、これまで経験が無いようなことをさせていただけたのも、市Ｐ協のおかげかなと思っています。



〈渡辺〉　舘岩少年自然の家の視察研修に加えて、環境整備のお手伝いをしてこようと始めたことです。職員の方たちと一緒に汗を流したことによって、職員の方たちが、すごく近くなったということを感じています。参加した方からも良かったというお話をいただきました。それと、市Ｐ協の第二回の研究大会をさせていただいたこと。二分科会の研究大会になりましたけれども、「家庭教育についてみんなで考えてみよう」というテーマで、区連の情報交換という形で研究大会ができたということは、これから、三回、四回と、ぜひ繋げていって欲しいというところです。



●さて、十年たったところで、改めて、市Ｐ協の存在意義、あるいは社会の中の役割について、みなさんのご意見を伺いたいと思います。

〈橋本〉　やはり、さいたま市との窓口になるのは市Ｐ協だということ。それと区との連携という中では、やっぱり区連になります。合併して、いろんなものを統合していく中で、審議会に出て、市政の運営にかなりの意見を伝えて来ています。そういう意味では市Ｐ協の存在がずば抜けていました。政令市になるにあたっては、やはり、区割りを一番先にしたのもＰＴＡで、市と区と交流がきちっとできるという窓口を一番先に作ったということは、存在感があるのだと、僕は思います。それが今に繋がっています。

〈向江〉　平成十七年、岩槻がさいたま市に加入するということで、当時の岩槻連合会の役員の方たちと話し合いを進めて、教育委員会室で調印式をやらせていただきましたが、市Ｐ協に入って本当に良かったと思っていただけるように頑張らなければと身の引き締まる思いでした。今日、様々な問題が起こっていますが、子どもたちを含めた地域の皆様が安心して生活できる街づくりのためにも、家庭・学校・地域が一致団結することが必要です。そして、その要となるのが市Ｐ協であると考えます。日々の活動で得た生きた情報を市Ｐ協が発信していくなど、社会において果たす役割はとても大きいと思います。

〈天野〉　市Ｐ協の存在意義としては、やはり、単会、区連のサポーターなのかなと思います。子どもたちのためって、ＰＴＡがあるのだけれども、市Ｐが直接子どもたちにアクションをとるのは実際難しくて、何より直接子どもにアクションをとれるのは単会なんです。それで、未経験な会長さんに対してサポートできるのが、区連だったり、市Ｐだったりするわけです。市Ｐの存在意義っていうのは、見えないところにあると思うのです。もうひとつは社会の中での役割って考えた時に、将来を担う子どもたちを育てていく場面にいますので、ＰＴＡに携わる人たちによって、もしかしたら日本の将来が変わっていくのかなってところがあって、そういった意識を持って活動していただけたらいいのかなと思います。

〈渡辺〉　単会の役員時代に斎藤孝さんの講演会に参加させていただいたことがあって、市Ｐ協になるとこういったことができるんだと思いました。そういった学ぶ場をみなさんに提供するということも存在意義だと思います。それと地域力を高める上で、これから地域の人間になっていく保護者を育てていくのも社会の中の役割であるのかなと感じています。それから、警備員の件では、さいたま市教育員会といろいろ協議を重ね、市長にも会ってもらって、保護者の思いを伝えられたところで、やはり、市Ｐ協でなければこれができなかったのかなと思えますので、教育委員会とのいい関係を保ちながら、保護者の思いをきちんと伝えていく、そういったところが、存在意義でもあるでしょうし、社会的な役割でもあると思います。

●最後に磯田会長より、市Ｐ協が今後目指すところ、できれば、今後十年間のビジョンなどについてお話いただければと思います。

〈磯田〉　十年後、生きているかどうかもわかりませんが（笑）、今、強く思う事は、橋本さんの代から培っていただいた、市長また、教育委員会との関係を、みなさん上手に引き継いでいただいて、現在に繋がっているということです。それは私も大切にしなくてはいけないと思うところです。今現実に直面している問題に対して、今年から常任理事会という形をとり、できるだけみなさんのご意見を反映できるような形で、みなさんの総意で市Ｐ協を運営していきたいと思っております。今ある現実に向かって、少しずつ積み重ねていく事が十年後につながると思います。また、一番この十年間を支えていただいた、福田事務局長、澗田さん、沼澤さんに感謝の気持ちでいっぱいです。



●みなさん、本日はいいお話をどうもありがとうございました。

事務局スタッフ



澗田 桂子　福田 節子（事務局長）　沼澤 みつえ

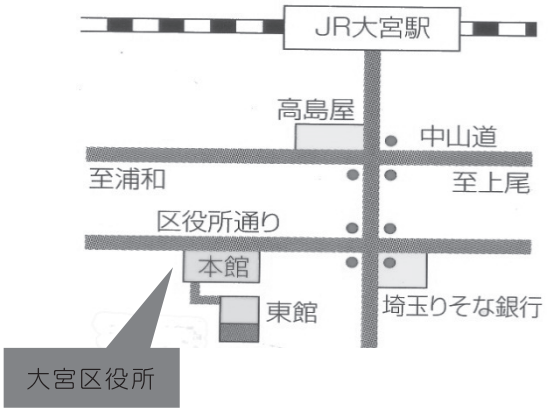
振り返ってみれば・・・

早いもので、設立十年を迎えました。「三市合併」と聞いたときは『無理』と思いました。当時のことを思い起こしますと、大宮市Ｐ連の役員さんが浦和市・与野市の役員さんと協議を開始して実感が湧いてきました。しかしながら、事務局は三市それぞれ体制が違いましたので、どの時点でどの方法で整えていくのかと不安を覚えました。合併しての二年間は、三ブロックでの活動となり、旧三市の色が濃く出た活動のように感じました。その後絵の具が少しずつ交わるように、「さいたま市」になってきたように実感しました。平成十三年には、秋田での全国大会又つくば市での関ブロ大会には、当時さいたま市所有のバス「エンデバー号」でさいたま市の役員として派遣され、勉強もさせていただきました。平成十五年、全国十三番目の政令指定都市となり、九区の連合会が立ち上がり、事務局の三人体制での再スタートとなりました区連の活動が手探りで始まり、一歩一歩それぞれの区連に合った活動が充実してきたように感じます。平成十七年岩槻市合併により現在の十区体制となりました。お互い切磋琢磨し、各校ＰＴＡの活動に刺激を与えているように思います。年々充実した活動が増える中、事務局としても忙しくはなりますが、できる限りのバックアップをしていけるよう努力したいと思っています。

『継続は力なり』

（事務局長　福田 節子）





〒330-8501
さいたま市大宮区大門町３－１
大宮区役所東館１階
TEL・FAX 048-647-4401　048-647-4414
E-Mail　hotline@saitama-city-pta.jp
市Ｐ協ホームページ
http://www.saitama-city-pta.jp

10周年記念事業実行委員会組織図

実行委員会会長
磯田 和男

顧　問
歴代会長
橋本 正晴・向江 正晃・天野 雅裕

実行委員長
渡辺 紀子

事務局
福田 節子・澗田 桂子・沼澤 みつえ

副実行委員長
山田 祐司

記念誌部会

部　長　原口 久美子
副部長　榎本 泰助
副部長　高島 清
　　井原 光太郎
　　荒井 哲
広報情報委員
　　髙野 幸男　坂本 甲次
　　相澤 秀行　根岸 稔
　　高松 正毅　松山 克彦
　　森　俊朗　小林 直太
　　山﨑 充晴
広報情報サポーター
　　鎌田 兼司　飯塚 博之
　　大木 雅仁　榎本 夏香
　　小林 真紀子　淺野 征子
　　小山田 力　金子 真記子

式典部会

部　長　玉井 哲夫
副部長　新井 森夫
副部長　鵜沢 勇
　　保坂 和夫
　　澤登 直子
　　船木 まさこ
　　中山 博貴
　　笠井 健太
事業委員
　　武藤 敏男　畠山 桃子
　　老川 千夏　井坂 功
　　荒井 清司　石田 幸弘
　　小山 哲司　森谷 行雄
　　手塚 健一

あとがき

三市合併とほぼ同時に立ち上がったさいたま市ＰＴＡ協議会。三市ＰＴＡ連合会のそれぞれの違いを乗り超えて設立を果たすまでには、先人方の並々ならぬご尽力があったことを、本誌編集に当たり、再確認することができました。その後、岩槻市Ｐ連も加わり政令指定都市のＰ協として、大きく成長してきた過程を記録する最初の記念誌に携われたことを幸せに思います。本誌編集に際しましては、多くの関係者の方々、そして二十二年度広報情報委員会の皆様にご尽力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

（原口 久美子）

■発行日　平成二十二年十一月
■発行　さいたま市ＰＴＡ協議会
■編集　設立十周年記念誌部会
■印刷　秀明美術印刷社